

72  
196

軍人衛生學

060476-000-9

060476-000-9

82-196

軍人衛生学

教育総監部

M33

CBM-0315





1961年1月  
A 100  
M 100  
B 100  
C 100  
D 100  
E 100  
F 100  
G 100  
H 100  
I 100  
J 100  
K 100  
L 100  
M 100  
N 100  
O 100  
P 100  
Q 100  
R 100  
S 100  
T 100  
U 100  
V 100  
W 100  
X 100  
Y 100  
Z 100



緒言

衛生學ハ其範圍頗ル廣漠ナリ然レモ軍人ニハ軍人衛生學  
 アリ其熟知如何ハ軍隊ノ強弱、戰鬥ノ勝敗ニ關スルコト戰  
 史ニ徴シテ明ナリ故ニ軍人タルモノハ平戰兩時ノ爲メ斯  
 學ヲ修習セザルニラス抑此篇ノ如キハ僅ニ梗概ヲ掲ク  
 ルニ過キス下雖モ能ク之ヲ習得實踐スルトキハ即自己ノ  
 疾病ヲ豫防シ軍隊ノ健康ヲ維持スルニ至ラン

緒言





軍人衛生學

目次

第一章	衣服	一
第二章	飲食	三
第三章	住居	七
第四章	兵業	一二
第五章	行軍	一八
第六章	養生	二二
第七章	傳染病豫防	二六
附錄	救急法	
第一章	創傷	三三

目次



其一	創傷處理	三三
其二	止血	三六
其三	綑帶包	四一
第二章	急病	四九
其一	卒倒	四九
其二	火傷	四九
其三	日射病	五〇
其四	凍傷	五一
其五	凍死假死	五一
其六	溺水	五一
其七	縊首	五二
其八	窒息	五二

其九	咬傷	五二
其十	中毒	五三
其十一	人工呼吸法	五三

軍人衛生學目次終



# 軍人衛生學

## 第一章 衣服

人ノ生々ニハ一定ノ温度ヲ要ス體温是ナリ其温源ハ飲食物ニシテ其  
 放失ハ主トシテ皮膚ヨリシテ熱ト爲リ身ヲ害シ  
 スニ至ル皮膚ニハ自然ノ妙機アリテ常ニ能ク之ヲ調節スト雖モ外圍  
 ノ温一定ノ度ヲ下ルキハ獨リ其機能ニ頼ルコト能ハス被包シテ以  
 テ之ヲ助ケサルヘカラス衣服ノ必要是ニ於テ起ルモノトス

故ニ衣服ハ家屋ニ於ケル四壁ノ如ク常ニ人ノ身體ヲ圍繞シ身體ト衣  
 服ノ間ニ攝氏三十二三度ノ人工氣候ヲ保有シ寒冷ニ於テハ體温ノ放  
 失過度ヲ調節シ暑熱ニ於テハ外襲ノ熱ヲ防キ以テ健康ヲ保護スルモ



ノニシテ生存上 缺クヘカラサル要具ナリ而シテ衣服ニ於ケル衛生上ノ注意ハ左ノ如シ

- 一 衣服ハ緊迫ニ過クルトキハ身體ノ運動及血液ノ循環ヲ妨クルヲ以テ適宜寛裕ナラサルヘカラス
- 二 襯衣、袴下、腹帶、<sup>フンド</sup>褲、<sup>ツツ</sup>襪等肌ニ觸ル、モノハ污垢ヲ吸收シテ不潔ニナリ易ク諸皮膚病ノ原因トナルヲ以テ勉メテ屢々洗濯交換スベシ
- 三 濕潤セル衣服ヲ纏フトキハ一ハ重力ノ爲メ働作ヲ妨ケ一ハ水分ノ蒸發ノ爲メ體温ヲ過度ニ奪却セラレ疾病ノ原トナル故ニ乾燥セシムルコトヲ勉ムヘシ
- 四 袴ヲ着スルニハ會陰ヲ壓迫セズ細紐ニテ腰圍ヲ強ク纏絡スルコトナキヲ佳トス

- 五 帽ハ寒熱雨濕及日光ヲ禦キ輕クシテ適合シ蒸發氣ヲ妨ケサルヲ要ス其夏期ニ於テ日覆ヲ附スル所以ハ外襲ノ暑熱ヲ遮防スルニアリ故ニ時々洗滌シテ白色ヲ保タシムヘシ
- 六 襟ハ寛裕ニシテ頸圍咽喉ヲ緊壓スヘカラス大約皮膚ト襟トノ間容易ク二指ヲ挿入スヘキヲ要ス
- 七 靴ニ就テノ衛生上注意ハ行軍ノ條下ニ讓ル

### 第二章 飲食

人ノ生活ヲ保續スルニハ飲食物ヲ要ス人身ハ猶ホ蒸汽機關ノ如ク飲食物ハ恰モ石炭ノ如シ石炭ニ種々ノ品質アル如ク飲食物ニモ種々ノ品類アリト雖モ其主用ハ酸化作用ニヨリテ温即チ力源ヲ製出スルニ在ルモノトス蒸汽機關ニ於テハ石炭ノ燃燒ニ因テ生シタル蒸汽ノ温ハ機械力ニ化シテ列車ノ運轉トナリ人體ニ於テハ飲食物ノ消化吸收



セラレ身體組織ニ入り其細胞ニ於テ酸化作用ニ因テ發シタル温ハ或ハ機械力ニ化シ或ハ思考力ニ變シ或ハ生理的體温トナル而シテ體外ニ排出スル尿管等ノ如キ老廢物ハ猶ホ蒸汽機關ニ於ケル烟灰ノ如シ故ニ能ク以上ノ理ヲ解スルトキハ吾人ハ飲食ヲ貪ル爲ニ生活スルニ非ラス飲食ハ吾人生活シ能ク本分ヲ盡クスニ必要ナルモノタルヲ知ルト共ニ彼ノ暴飲暴食ノ爲メ其身ヲ誤ルモノハ恰モ過多ニ石炭ヲ使用シテ蒸汽機關ノ破損ヲ招キ列車ノ運轉ヲ中止シテ自他ノ損害ヲ致シタルノ愚ト一般ナルヲ了解セサル可カラズ宜シク鑑ムヘシ

食品ニ二種アリ動物性及植物性はナリ魚、鳥、獸肉、卵及乳ノ類ハ動物性食品ニ屬シ穀物、果實、蔬菜類ハ植物性食品ニ屬ス甲ハ蛋白質及脂肪ニ富ミ乙ハ含水炭素及木纖維ニ富ムモノトス飲食物ニ於ケル衛生上注意左ノ如シ

- 一 飲食後ハ直チニ作業ニ就クヘカラス又作業後直チニ飲食スヘカラス
- 二 食物ハ充分ニ咀嚼シ徐々ニ喫了スヘシ
- 三 魚肉ハ極メテ新鮮ナルヲ撰ヒ獸肉ハ屠殺後約二十四時間ヲ經タルモノヲ食フヘシ
- 四 新鮮善良ナル獸肉ハ赤色ニシテ指ヲ觸ルレハ堅實且彈力アリテ一種ノ香氣ヲ有ス腐敗シタルモノハ柔軟ニシテ不快ノ臭氣ヲ放ツモノナリ
- 五 肉類ハ善ク煮又ハ炙リテ食フヲ可トス魚肉、鶏卵ノ新鮮ナルモノハ生ニテ食フモ妨ナシ但シ醃藏ノ魚肉ハ暫ク水ニ浸シテ後調理スヘシ
- 六 食品ハ或ハ動物性或ハ植物性ニ偏スルトキハ厭キ易クシテ却テ



- 七 榮養法ニ適ハス毎ニ兩者ヲ伍用スルヲ可トス  
植物性食品ハ凡テ新シキヲ良トス陳舊ニシテ臭アルハ食フヘカ  
ラス
- 八 麵包ノ少シク日ヲ經ルモノハ煖ムレハ故ニ復スト雖モ其微ヲ生  
セシモノハ食セサルヲ可トス
- 九 色料ニハ間々毒アルモノアリ兵食ニハ之ヲ避クルヲ可トス殊ニ  
外國等ニアリテハ色料ヲ用非タルモシヲ食スヘカラス
- 十 飲水ハ透明無色無臭ニシテ清爽ナル味ヲ有スルヲ可トス而シテ  
通例上水井水泉水ヲ第一トシ清淨ノ河水之ニ次ク純良ノ雨水モ  
亦用非ルコトアルヘシ又飲料水ニ關係アルヘキ傳染病發生ノ時  
期ト土地トニ於テハ一旦煮沸シタルモノヲ用ユヘシ
- 十一 通常用非ル所ノ砂濾器ハ屢々砂ヲ洗ヒ燥シテ用ユヘシ然ラサ

- ルトキハ濾水ノ効ナキナリ良水ヲ得難ク且濾水器ヲ缺ク場合ニ  
ハ之ニ代ユルニ新ラシキ毛布ヲ重ネ又ハ樽桶甕ノ類ニ清潔ナル  
砂石木炭等ヲ層々ニ重疊シテ水ヲ濾過シ然後之ヲ煮沸シテ用ユ  
ヘシ
- 十二 池沼等ノ死水ハ常ニ多量ノ有機質ヲ含有シ危害ヲ招クノ恐ア  
ルヲ以テ用ユヘカラス
- 十三 戰時ニハ屢々水ノ不足ヲ見ルコトアリ平時水ヲ節約スル習慣  
ヲ養成スヘシ
- 十四 烟草茶酒等ハ嗜好品ニ屬ス適度ニ之ヲ用非ルハ衛生上妨ケナ  
シト雖モ過度ニ之ヲ用非ルトキハ種々ノ弊害ヲ醸ス宜シク注意  
スヘシ

### 第三章 住居



家屋ハ人ノ生命ヲ保全スルニ必要ナルヨリ起リタルモノニシテ其要  
ハ被服ト同シク人工ノ氣候ヲ造リテ其内ニ住居スル人ヲシテ寒暑ヲ  
凌キ風雨ヲ避ケ棲息安眠セシムルニアリ  
住居ノ衛生法ハ空氣ノ流通ト日光ノ射入トヲ完フシ適度ノ室温ヲ保  
チ良水ノ供給ヲ得ルヲ以テ主トス  
兵舎ノ如キ稠人群居スル室内ニ於テハ人體ノ排泄物炭火點燈ノ瓦斯  
等ヲ以テ空氣ヲ汚スコト甚シキヲ以テ時々窓ヲ開キテ新鮮ノ空氣ヲ  
通スヘク又日光ハ身體ノ新陳代謝ヲ旺盛ニシ精神ヲ活潑ナラシメ有  
機質ヲ酸化シテ無害トナシ諸種ノ病毒ヲ撲滅スル等人ノ保健上最モ  
必要ナルモノナルヲ以テ充分之ヲ採ルコトニ注意スヘシ然レモ眼ニ  
直射ノ日光ヲ受クルハ害アリ又冬天強ヒテ窓ヲ開キ寒ヲ忍フモ宜シ  
カラス是室内ニハ適度ノ温暖ヲ要スルモノナレハナリ其他住居ニ關

スル衛生上ノ注意ハ左ノ如シ

- 一 室内ノ空氣ヲ汚スモノハ人身ノ蒸發物ノ外ニ種々アルモ炭火ハ  
殊ニ甚シトス古來日本ノ家ハ障子又ハ窓廣ク且天井壁床ナトニ  
虧隙多キカ故ニ室内ノ空氣ハ自然ニ室外ノ空氣ト交換シテ著シ  
キ害ヲ見サレトモ西洋風ニ建築シタル家屋ニテハ虧隙少ナク自  
然ノ空氣交換モ一ナキ故ニ室内ニ熾ニ炭火ヲ焚ケハ必ス害アリ  
其他動植物ノ腐敗燈火喫烟衣服器具ノ不潔濕潤等モ空氣ヲ汚ス  
モノナリ故ニ成ルヘク別室ニテ飲食及喫烟シ衣服寢具器具ノ掃  
除モ成ルヘク室外ニ於テ行ヒ床板窓牖及寢臺ハ屢々清潔ニ拭ヒ  
襪蓆毛布ハ刷毛ニテ刷キ又ハ輕ク鞭打シテヨク塵埃ヲ去リ又時  
々日光ニ曝スヘシ
- 二 暖室ノ溫度ハ羅氏十七八度ヲ良トス猥リニ高度ナラシムヘカラ



ス又煖爐ノ焚燒期限内、雖モ攝氏十五度以上ナルトキハ必シモ  
焚燒ヲ要セス其他煤烟ノ爐外ニ漏ル、ハ大ニ室内空氣ヲ汚スヲ  
以テ宜ク注意スヘシ

三 廁圍ハ惡臭ヲ放チ空氣ヲ汚シ又ハ尿管土中ニ浸潤シテ井水ニ混  
シ大害ヲ招クコトアリ故ニ廁ニ上ラハ必ス正シク壺中ニ放チ又  
屢々掃除シテ清潔ナラシメ且期日ヲ違ヘズ汲ミ取ラシムヘシ  
四 溝渠殊ニ庖厨浴場井戸端洗面場洗濯場等ノ下水ハ不潔物ヲ含ム  
カ故ニ空氣及井水ヲ汚スノ處アリ決シテ滯滯ナカラシムヘシ

五 炊事場ハ常ニ水及飲食物ヲ取扱フヲ以テ土地井水及空氣ヲ汚シ  
易シ故ニ水桶割烹ノ器具及炊事常番兵ノ衣服等ハ常ニ清潔ニス  
ヘシ就中食物ノ殘滓ハ速ニ他ニ移シテ場内ニ留ムヘカラス  
六 芥溜モ亦土地井水及空氣ヲ汚スヲ以テ掃除ヲ怠ルヘカラス

七 厩ハ馬ノ糞尿土中ニ浸潤シテ空氣及井水ヲ汚スコト廁圍ヨリモ  
甚シキコトアリ常ニ清潔法ニ注意スヘシ

八 營倉ハ通常窓扉少クシテ晝猶ホ暗ク廁圍ノ臭氣室内ヲ汚シ常ニ  
大氣ノ交換日光ノ射入乏シキヲ以テ殊ニ廁圍ノ掃除窓扉ノ開閉  
ニ注意スヘシ

九 野外演習等ニ於テ陣營ヲ沼澤其他卑濕ノ地ニ布クトキハ猥リニ  
其地ノ水ヲ飲ム可カラス又舍營ノ時モ民家ハ多クハ狹隘ニシテ  
且不潔ナルカ故ニ空氣ノ交換及家屋内外ノ清潔法ニ注意スヘシ  
十 露營地ハ給水自在ニシテ土地乾燥シ風雨ヲ防クニ便ナル地ニ撰  
定セラル、ヲ常トスレトモ若シ戰鬪後久シキヲ經サル地埋葬地、  
沼澤ノ如キ死水ノ近傍若クハ卑濕ノ地及雜草ノ繁茂セル地上ニ  
露營セサルヲ得サルトキハ可及的多ク藁枯草等ヲ用井テ席ヲ作



リ或ハ火氣ヲ以テ土地ヲ乾燥シ然後之ニ居ルヘシ  
 十一 幕營ハ野營ノ最モ簡ナルモノニシテ之ヲ張ルニハ乾燥セル地  
 ヲ撰ビ草莽ヲ刈リ之ヲ夷ニシ之ヲ固メ其周圍ニハ廣キ明渠ヲ鑿  
 チ其内ハ薪ヲ燃ヤシテ之ヲ乾シ場合ニ依リテハ表層ノ穢土ヲ鋤  
 去シ乾砂ヲ以テ之ニ代フヘシ又二週以上一所ニ留マルヘカラス  
 其以内ニ於テ一度幕ヲ撤シ之ヲ他所ニ移スヘシ

#### 第四章 兵業

凡ソ人ノ作業ハ適度ヲ得レハ體內ノ酸化作用ヲ旺盛ナラシメ身體ヲ  
 強健ニシテ精神ヲ活潑ナラシムルノ利アリト雖モ若シ過度ナルトキ  
 ハ却テ身體精神ヲ病弱ナラシムルノ害アリ幹部タルモノ深ク注意セ  
 サルヘカラス  
 兵業トハ兵ノ體育ニ關スル諸般ノ作業ヲ總稱シタルモノナリ其衛生

上注意ハ左ノ如シ

- 一 健康人一日ノ作業時間ハ通常八時乃至十時ヲ限リトス
- 二 體操ハ身體舉動ノ細節ニ拘泥セス宜シク専ラ生理學ニ注意シ身  
 體ヲ強健ナラシムルヲ以テ旨トスヘシ體操ノ始メハ容易ナル運  
 動ヲナシ次テ種々ノ器械ニ依テ身體各部筋叢ヲ齊シク働カシム  
 ルノ運動ヲ行ヒ且最後ニ再ヒ簡易ノ法ヲ行フトキハ能ク筋骨ヲ  
 強壯ニシ皮膚ト肺トノ機能ヲ振起スルヲ得ルナリ然レモ幹部ノ  
 注意周到ナラサレハ打撲、骨折、脱臼等ノ傷害ヲ起スコトアリ須ク  
 戒心スヘシ
- 三 體操ハ能ク體重ト胸圍トヲ増シ隨テ又體力ヲ強壯ニシ動作敏捷  
 トナル然レモ之ヲ實施スルニ當リ先ツ新兵ノ身體ヲ検査シ作業  
 中ハ呼吸心悸ニ注目シ若シ其異常アル者ハ之ニ休憩ヲ與ヘ又飲



食後直チニ業ニ就カシムヘカラス空腹ノ時モ亦然リ衣ハ輕且寛ナルヲ要ス體操時間ハ午前午後各一時間ヲ取り練兵時ヲ其間ニ挾ムヘシ

四 器械體操ヲ行フニハ豫メ諸機ノ損所ナキヤヲ視查シテ後之ヲ始ムヘシ

五 行走ハ宜シク時期ヲ料リ之ヲ歇メ跳躍ハ宜シク軟地ノ上ニ於テスヘシ

六 游泳ハ衛生的運動ノ一ニシテ筋肉ヲ堅韌ニシ皮膚ヲ強壯ニシ兼テ之ヲ學フモノヲシテ膽力ヲ養長セシムルノ利アリ然レモ之ヲ行フ其法ヲ得サレハ害ヲ招クコト亦少ナカラス游泳時長キニ過ルトキニ於テ殊ニ然リ罹病者就中心臟病脚氣病ヲ疾ムモノ及酒後食後發汗時ハ之ヲ忌ム水耳内ニ入り耳病ヲ起スコトアリ豫メ

七 綿花ヲ以テ外聽道ヲ栓塞スルニ非レハ則チ出水後捻紙ヲ以テ善ク水濕ヲ去ルヘシ又游泳演習ニハ救難上ノ諸準備アルヲ要ス銃劍術軍刀術等ハ臂力ヲ増シ勇氣ヲ養フノ益アリ且之ニ習熟スルトキハ身體ノ動作敏捷活潑ニシテ常ニ不意ノ襲撃ヲ戒心スルノ念ヲ生スルカ故ニ眼神確實ニシテ物ヲ定視スルコト迅速ナルヲ得ルナリ然レモ保險具完カラサルトキハ受傷ノ因トナル監督者宜シク注意スヘシ

八 自轉車ハ通信偵察等ノ爲ニ近時軍隊ニ之ヲ使用ス適度ノ自轉車行ハ四肢ノ筋肉ヲ強クシ心臟ヲ壯ニシ肺機ヲ旺ニシ食氣ヲ加ヘ便通ヲ利スト雖モ過度ナルトキハ之ニ反シ身體ヲシテ却テ疲憊セシム登坂及急行ノ時殊ニ甚シ間マ急性心臟擴大ノ爲ニ即死スルモノアリ又暑候ニハ日射病ノ虞アリ宜シク警戒スヘシ



- 九 凡ソ上述ノ諸運動ハ皆過劇ヲ忌ム又運動法ハ成ルヘク交換シテ厭カシメサルヲ要ス運動間ニハ時々休憩ヲ與フルヲ可トスト雖モ其休憩長キニ過クヘカラス又休憩時冷地上ニ坐臥スヘカラス皆感冒ノ因トナルコトアレハナリ
- 寒天時ノ休憩間ニハ歩ヲ移シ體ヲ動ヌヲ可トス凍傷ニ罹ルノ恐アレハナリ
- 十 軍歌ハ只遊戯ノ一ト考定スヘカラス亦肺臟ヲ強壯ニスルノ効アルナリ
- 十一 氣ヲ附ケノ姿勢ニ於テ長ク其位置ヲ保タシムヘカラス適宜ニ休メノ姿勢ヲ採ラシムヘシ此姿勢ニ於テハ兩足互ニ離隔シテ大ニ諸筋ノ勞ヲ省クコトヲ得レハナリ
- 十二 歩法ハ成ルヘク生理ニ適フヲ可トス足尖ヲ強テ其自然到着シ

- 得ル地面ノ外ニ進ムルカ如キハ宜シカラス動作ノ損亡ヲ招キ體カヲ消耗シ長途ノ行軍ヲナス能ハサレハナリ
- 十三 作業中渴ヲ覺ユルコトアルモ頗ニ多量ノ水ヲ飲ムコト勿レ消化器ヲ害スレハナリ又作業終テ室ニ還リ襦袢汗ニテ潤フトキハ之ヲ換ヘ乾キタル手巾ヲ取テ膚ヲ拭フヘシ此際冷風ニ當ルヲ避ク感冒ニ罹リ易ケレハナリ
- 十四 哨兵ハ空腹ニシテ立ツコト勿レ交代ハ毎二時ヲ宜シトス暑時ハ水筒ヲ帶ハシメ帽下濕布ヲ置キ寒時ハ交代時ヲ縮メ防寒服ヲ給シ藁ヲ布カシムヘシ雨雪ニハ哨舎ニ入ルヲ得ルト雖モ炎天ニモ亦之ヲ許サハ其保健上ニ益アルコト雨雪ノ時ト同シカルヘシ
- 十五 騎馬ノ諸兵ハ屢々臀ト股トヲ傷ルコトアリ之ヲ鞍傷ト謂フ多クハ皮膚ノ不潔ナルト袴袴下ノ着用法宜シキヲ得サルニ由テ生



ス尻臀ト内股トハ時々冷水ヲ取テ之ヲ洗フヘシ袴下ハ其内面ヲシテ皺襞ヲ生セシムルコト勿レ

十六 器械體操、乘馬演習等ニ於テ生スル負傷者中ニハ骨折、捻挫等少カラサルヲ以テ負傷者ヲ起立セシメ又ハ強テ歩行セシムヘカラス如斯舉動ヲナストキハ輕症ヲシテ重症ニ陥ラシムルコトアリ宜シク注意スヘシ

### 第五章 行軍

行軍中衛生ニ注意シ傷病ニ因スル列兵ノ減少ヲ豫防シ行軍力ヲ保持スルハ戰鬪ノ結果ヲ良好ナラシムルニ大關係アルモノナリ若シ夫レ行軍中衛生上ノ注意ヲ缺クトキハ患者陸續發生セル實例古來鮮ナカラス鑑ミスンハアルヘカラス

一 行軍途上ハ靴傷ヲ生シ易シ是靴ノ足ニ適セサルト革質並手入惡

キト襪ノ皺襞ヲナシ穴ヲ生シタル等ヨリ起ルモノナルヲ以テ靴ハ常ニ善ク足ニ合フモノヲ撰ヒ靴墨ヲ塗リテ善ク之ヲ磨キ適宜ニ爪ヲ剪リ冷水ニテ數々足ヲ洗ヒ襪ハ皺襞ナカラシメ砂塵等靴内ニ入ルトキハ速ニ之ヲ除キ途上休止ノ際ニハ襪ヲ翻轉シテ表裏ヲ交換スヘシ

連日行軍ノ時朝途ニ上ルニ先チ一二分間熱キ湯ニテ足ヲ洗ヒ一旦乾シテ更ニ石鹼ヲ塗擦シ泡ヲ生セシメ然ル後靴ヲ穿ツモ亦靴傷豫防ノ一法ナリ若シ尙ホ水泡ヲ生スルコトアラハ即チ診斷ヲ受クヘシ濫リニ自ラ水泡ヲ破ルカ如キコトアルヘカラス汗足ヲ患フルモノハ和紙、濾紙、絲瓜等ノ引濕物ヲ蹠下ニ敷クカ又ハ醫官ニ藥ヲ乞フヘシ

二 夏期炎天ニ際シ行軍途上休憩ノ命アラハ樹陰及屋内ニ於テ涼ヲ



- 取ルヘシ但俄ニ背囊ヲ卸シ又ハ多量ノ水ヲ一頓ニ飲ムハ害アリ  
渴甚シキトキハ多ク口ニ臍ミテ吐クモ可ナリ發汗シテ宿舍ニ着  
クトキハ暫ク休憩シタル後衣服ヲ換ヘ皮膚ヲ洗フヘシ
- 三 夏時行軍ニ方リテハ成ルヘク負荷量ヲ輕クシ衣ノ卸ヲ外シ胸ヲ  
開カシ時々帽ヲ脱キテ頭部ニ風ヲ入ルヘシ若シ顔面潮紅眩暈ス  
ルモノアラハ其名ヲ呼フヘシ名ヲ呼ハレテ應答ノ明ナラサル者  
アラハ直チニ醫官ノ診斷ヲ受ケシムヘシ若シ醫官アラサルトキ  
ハ救急法ニ由テ處置スヘシ(附錄救急法ノ條下ヲ見ヨ)
- 四 嚴寒雪天ノ候行軍スルトキハ凍傷ニ罹リ易シ之ヲ豫防センニハ  
先ツ善ク靴ヲ吟味シ手套襪等ノ破綻ヲ補縫シ可成的濕潤ヲ避ク  
ヘシ若シ尙ホ濕潤ニ遇フコトアルモ休止間焚火等ニテ急ニ手足  
ヲ温ムルコト勿レテ、ニヒアソ、ニヒ手指、足趾等凍ハ五スルトキハ救急法ニ依リテ處

置スヘシ(附錄救急法第二章其四、其五ヲ參照スヘシ)

- 五 極寒中歩哨ニ立ツ時ハ一定ノ區域内ヲ徐歩スヘシ是一所ニ佇立  
スルトキハ凍傷ヲ生シ易ケレハナリ
- 六 行軍中水筒ニハ必ス前夜又ハ出發前湯茶或ハ一度煮沸シタル水  
ヲ盛ルコトヲ忘ルヘカラス
- 七 行軍野外演習等ニ於テモ飲食ハ成ルヘク徐カニスヘシ之ヲ急ニ  
スルハ害アリ
- 八 途上雷電ニ逢フトキ高麗喬樹ノ下ニ憩ヒ又銃劍ヲ裝附スルノ危  
險ナルハ皆知ル所ナリ
- 九 行軍中眼ニ異物ノ入りタルトキハ摩擦スルコトナク自カラ流涙  
ニ伴ヒ流出セシムヘシ其出難キトキハ清水ニ異物ノ入りタル半  
面ヲ漬シ眼ヲ開キ外マ、ツリ皆ヨリ内ウ、ガ、ツラ皆ニ向ヒ徐カニ二三回輕ク摩擦シ



テ之ヲ除クヘシ

十 瘴癘氣アル地方ヲ行軍セサルヘカラサルトキハ日出前及日没後ハ之ヲ避クヘシ

十一 行軍發程ノ第一日ハ路程ヲ短縮シ且歩度ノ加減ヲ爲シ其緩急中位ニアルヲ良トス休止スルニハ急風衝激ノ地ヲ避クヘシ否サレハ身體汗ニ濡フモノハ感冒ニ罹ルノ恐アリ

十二 凡ソ行軍中ハ最モ飲食物ノ注意ヲ要ス其質ノ善惡其量ノ多寡ハ直チニ體力ノ消長身體ノ健否ニ關スレハナリ若シ夫レ傳染病アル地方ヲ通行スルコトアラハ下章傳染病豫防ノ條項ヲ嚴守スヘシ

### 第六章 養生

養生トハ各自ノ生活ニ關スル衛生法ニシテ人ニ頼ラスシテ自ラ之ヲ

行フモノナリ

吾人ノ日常使用スル炭ニ堅炭、櫻炭、消炭ノ別アル如ク亦吾人ノ體格ニ甲種乙種丙種ノ區別アルハ皆知ル所ナリ而シテ養生法ハ恰モ炭ノ埋法ノ如シ若シ櫻炭ヲ上手ニ灰中ニ埋没スレハ堅炭ヨリ長ク火氣ヲ保存スルコトヲ得ルカ如ク乙種體格ノ人養生法ヲ實行スレハ甲種體格ノ人ヨリ健康長壽ヲ保ツコトヲ得ヘシ之ニ反シ堅炭モ下手ニ灰中ニ埋没セラル、トキハ櫻炭ヨリ早ク火氣ヲ消失スルノミナラス消炭ニモ劣ルコトアリ養生不養生ニヨリテ健否殃壽ノ差違ヲ生スル所以ハ蓋シ此理ニ外ナラサルナリ今左ニ各自行フヘキ衛生法即チ養生ニ就キ其要領ヲ述ヘン

一 飲食、衣服、體育等ニ關スル衛生上注意ハ各項ニ述ヘタルモノヲ居常實行スヘシ



- 二 身體ノ不潔ナルハ諸病ノ原トナル故ニ練兵行軍ノ後ハ先ツ面部手足ヲ必ス洗滌スヘシ殊ニ足及股ヲ日々冷水ニテ洗ヘバ靴傷鞍傷ヲ防クノ一助トナルヘシ
- 三 頭髮ノ長キハ不潔ニナリ易シク規定ノ如ク短ク剪ルヘシ又屨々石礮ヲ用テ洗滌シ日々櫛リテ頭垢ヲ去ルヘシ
- 四 齒ノ不潔ハ齲齒並口内ノ病ヲ誘起シ漸々胃腸ヲ害スルニ至ルヲ以テ宜シク毎朝楊子及齒磨粉ヲ以テ清潔ニスルコトヲ勉ムヘシ但楊子及齒磨粉ノ品質ヲ撰フハ勿論齒質齒齦ヲ損セサル様注意シ食後ハ湯茶ヲ以テ含嗽スヘシ
- 五 爪ハ常ニ短キヲ良トス長キトキハ衣服其他器物ニ觸レテ損傷シ易ク爪ノ間ニ污垢ノ堆積スルモノナレハ時々剪去スヘシ但短キニ過クレハ又刺痛ヲ起スコトアルカ故ニ注意スヘシ

- 六 耳ハ污垢耳聾蓄積シテ不潔トナリ易ク遂ニハ耳漏ヲ起シ聽官ノ効用ヲ妨クルコトアレハ適宜ノ耳匙小刷毛ヲ以テ耳中ノ掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ入浴後游泳後等ハ水分ヲ充分拭ヒ去ルヘシ
- 七 入浴ハ全身ノ清潔法ニシテ甚タ緊要ナリ凡ソ一回十五分ヨリ長カルヘカラス食後若クハ空腹時或ハ酩酊中ノ入浴ハ反テ害アリ然ルトキハ手拭ヲ温湯ニ浸シテ皮膚ヲ拭ヒ之ニ代ユヘシ入浴中ハ石礮ヲ以テ陰部腋下肛圍等ヲ清洗スヘシ又朝夕手拭ヲ水ニ浸シテ全身ヲ摩擦シ或ハ冷水ニ浴スルハ皮膚ノ抵抗力ヲ強ムルノ益アリ然レモ此法ハ夏季ニ始メ漸次慣習シテ冬季ニ至ル如クセサレハ害アリ
- 八 睡眠ノ不足ハ身體疲勞ノ一大原因ナルカ故ニ夜間紊リニ睡眠時間ヲ空費スヘカラス



九 鼻毛、耳毛、塵埃、飛虫ノ侵入ヲ防ク等各其能アリ、剃去セサルヲ良トス

### 第七章 傳染病豫防

傳染病トハ病毒ノ體外ヨリ體內ニ入り此ニ増殖シテ發スル疾病ヲ謂フナリ而シテ虎列刺、腸窒扶斯、赤痢、實扶的里、發疹窒扶斯、痘瘡、百斯篤、猩紅熱ハ所謂八種傳染病ニシテ其他麻刺里亞、回歸熱、丹毒、破傷風、結核、梅毒、淋病、癩病、疥癬、炭疽熱、顆粒性結膜炎等モ皆傳染病ナリ  
凡ソ疾病ハ公衆及各自ノ衛生ニ由リテ概ネ之ヲ豫防シ得、傳染病ハ其ノ最モ確實ナルモノナリ然ルニ古來ノ疫史ニ徴スルニ戰役間ニ於テ本病ノ慘毒ヲ逞フセサルハ殆ト稀ニシテ病死者ノ數毎ニ戰死者ヨリ多キモ亦主トシテ此ニ是由ルナリ畢竟衛生法不行届ノ致ス所ナルヲ以テ軍人タルモノ戰時ハ勿論平時ニ於テモ皆其實行ヲ務メサルヘカ

ラス

抑モ傳染病毒ハ病ニ隨テ相異ナリト雖モ多クハ顯微鏡ニテ識別シ得ヘキ細菌ト稱スル微ノ如キモノナリ而シテ此細菌ノ生活繁殖スルニハ三ツノ要素ナルヘカラス即チ適度ノ溫度、適度ノ食物、適度ノ濕潤是レナリ以上三要素中其一ニヲ缺クトキハ細菌ハ生活繁殖スル能ハス故ニ傳染病豫防法ハ先ツ常ニ此要素ヲ奪却スルコトヲ務メ更ニ病毒ノ附着若クハ含有スヘキ物質ヲ無害ト爲シ以テ其繁殖蔓延ヲ防遏スルニアリ

傳染病ヲ豫防スルニハ左ノ諸件ヲ實行スヘシ

- 一 凡テ不潔ハ病毒感染ノ媒介ヲ爲スモノト覺期シ衣服、住居、食器、飲器、身體等ハ常ニ清潔ナランコトヲ務ムヘシ
- 二 凡テ清潔ニシテ乾燥セルトキハ縱令病毒襲來スルコトアルモ營



へハ礎礫地ニ種子ヲ蒔クカ如ク容易ニ繁殖蔓延セザルモノト心得非邊炊事場下水、廁圍、芥溜洗滌場ナド毎常濕潤不潔ニナリ易キ處ハ殊更ニ清潔、乾燥及流利ニ注意シ苟モ汚物ノ鬱滯ナキコトヲ圖ルハシ

三 飲食物ニ注意スルコト亦最モ大切ナリ流行時ニハ善ク煮炙セザル食物ヲ食ハス生水ヲ飲マス暴飲暴食ヲ嚴禁スヘシ

四 蚊蠅等ハ病毒ヲ傳搬スル有力ノ媒介物ナレハ移メテ之ヲ驅除シ且炊事場、酒保等ノ飲食物ニハ必ス覆蓋ヲ備エテ此等ノ虫族ニ觸レザル様心掛クヘシ

五 傳染病ハ火災ノ如ク既發ニ滅スハ難ク未萌ニ防クハ易キモノナルヲ以テ人々平生善ク衛生法ヲ守リテ之ニ懼ラサル様注意シ若シ猶ホ發病スルコトアラハ一層嚴重ニ豫防法ヲ守リ協力一致シ

テ他ニ傳播蔓延セザル様力ムヘシ

六 傳染病流行ノ模様ニ依リテハ流行地ヨリ來ル人モ物モ屯營内ニ入ル、コトヲ禁シ又一般ノ外出ヲ停止シテ總テ流行地トノ交通ヲ絶ツコトアリ之ヲ遮斷法ト云フ一屯營内ニ傳染病流行シタルトキモ營外トノ交通ヲ絶チ又ハ屯營内ニ於テ發病シタル舍ト健康ノ舍トノ交通ヲ遮斷スルコトアリ各自嚴重ニ之ヲ守ルヘシ

七 屯營内ニ傳染病起リタルトキハ醫官ノ指圖ヲ受クルハ勿論ナレトモ各自ノ心得置クヘキコト左ノ如シ

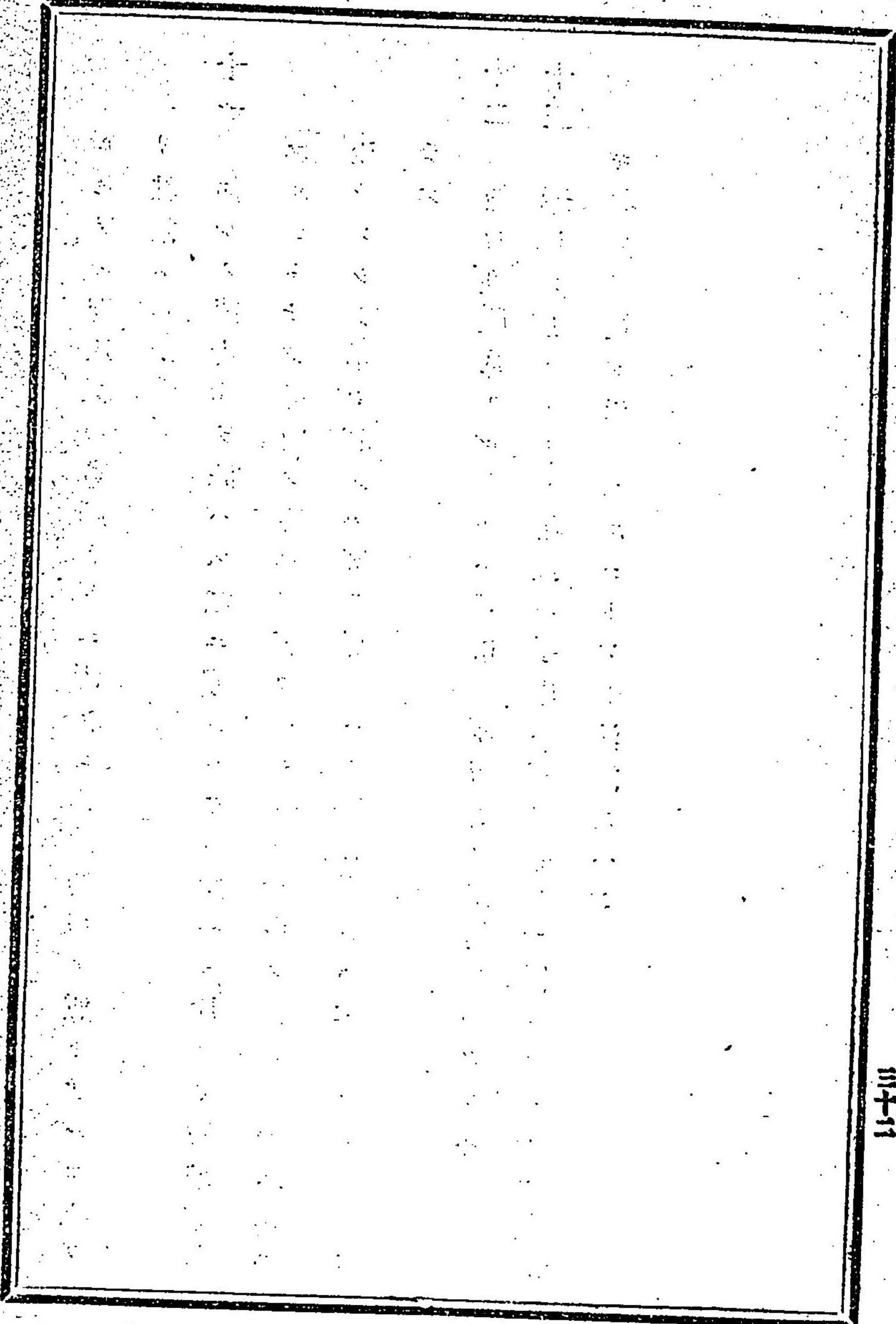
- イ 病者アラハ速ニ報告スヘシ縱令早マリタルモ差支ナシ報告後
- ル、トキハ大害アリ
- ロ 病者並ニ吐瀉物ハ猥リニ他ニ移スヘカラス
- ハ 看護ニ要スルモノ、外猥リニ病者ニ接スヘカラス



- ニ 病者ト同室ナルモノハ他室ニ行クヘカラス又他室ヨリモ此室ニ來ルヘカラス
- ホ 病者ノ上リタル厠ハ直チニ封鎖シテ上圍禁止ノ標紙ヲ貼シ若シ孰レノ厠ニ入りタルカ明カナラサルトキハ全棟ヲ封鎖スルコトモアリ
- 八 傳染病ノ毒ニ汚サレタルモノハ消毒法ヲ行ヒテ病毒ヲ撲滅スヘシ消毒法ハ物品ノ種類ト場合トニ依リテ燒却、汽熱、煮沸、用藥等數種アリ委細ハ醫官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 九 傳染病ハ民間ニ少ナカラヌモノナリ故ニ外出ニ方リテ民家ニ出入スルトキハ家人ニ注意シ病人アル家ニ入ルヘカラス又衆人群居スル祭禮、劇場、寄席、又ハ不潔ノ厠等ニ立ち入ルヘカラス
- 十 外出時ニハ最モ飲食ニ注意スヘシ殊ニ煮賣店ノ店頭ニ陳列シタ

- ルモノハ塵埃又ハ蒼蠅ナトニ汚サレテ傳染病ノ媒トナルコトアリ注意スヘシ
- 十一 何レノ傳染病ヲ問ハス之ニ感シタリト思ハ、片時モ猶豫隠蔽スルコトナク醫官ノ診斷ヲ乞フヘシ速ニ治療ヲ受クレハ大害ニ至ラスシテ治シ若クハ死ヲ免ルヘシ時期後ル、モノハ救フヘカラス
- 十二 流行性眼病アルトキハ手巾、洗面盥等ヲ混用スヘカラス
- 十三 麻疹ヲ患フルモノ指或ハ手巾ニ膿ヲ帶ヒテ眼ニ觸ルレハ劇シキ眼病ヲ發シ失明スルコトアリ注意スヘシ





(附錄) 救急法

救急ニ須ツコトアルモノヲ別チテ二トス曰ク創傷曰ク急病是レナリ  
創傷ハ主トシテ戦闘間ニ蒙ル所ノモノニシテ急病ハ行軍宿營中等ニ  
發スルモノナリ

第一章 創傷

其一 創傷處置

創<sup>キズ</sup>ノ化膿シ又ハ腐壞スルニ至ルハ皆病菌創面ヨリ入リテ害ヲナスニ  
因ル病菌ハ間々空中ニ飛揚スルカ故ニ創面ヲ開キ置ケハ即チ之ニ附  
着ス若シ夫レ手指等モ消毒ヲ經ルニアラサレハ病菌ノ附着シ居ルコ  
トヲ免レス是ヲ以テ手指創面ニ觸ルハ害アリ創面ハ速ニ消毒綿紗  
ヲ用井テ繙裹スルコトヲ要ス  
創傷ニ種々アリ左ニ其大要ヲ掲ク



一 挫創トハ撲チ挫キ又ハ振<sup>テ</sup>リタル傷ヲ謂フ其療法ハ其部位ヲ安保シ冷水ニ没シ又ハ冷水ヲ手巾其他ノ布片ニ浸シテ之ヲ冷スヘシ表皮ヲ破リシ創アラハ繃帶包<sup>(後ニ)</sup>中ノ消毒綿紗ヲ創面ニ當テ其上ニ殘リノ綿紗ヲ重ネ頸巾狀帶<sup>(後ニ)</sup>ヲ用非テ緊ク卷キ其末ヲ結ヒ又ハ止針ヲ用非テ縫ヒ止ムヘシ

二 砲彈ノ創ヲ砲創銃丸ノ創ヲ銃創白兵ノ創ヲ截創及ヒ刺創トナス此等ノ諸創ハ先ツ衣ヲ脱カシメ場合ニ依リテハ剪乃銃劍ヲ用非縫目ニ沿ヒテ創所ニ當ル衣ヲ切り開キ創ノ大小ニ應シテ消毒綿紗一枚又ハ二三枚ヲ其創口ニ當テ頸巾狀帶ヲ卷クヘシ創口ニ筒所以上アルトキハ一枚ツ、消毒綿紗ヲ各口ニ當ツヘシ出血甚シキトキハ止血<sup>(後ニ)</sup>ノ後消毒綿紗ニテ創口ヲ被ヒ頸巾狀帶ヲ用非テ固ク卷クヘシ總テ手<sup>ノ</sup>臂ニ傷ヲ受ケタルトキハ止血法ヲ施シ更

ニ胸ノ創ヲ外ツシテ手先ヲ懷ニ入レ又ハ劍帶手巾等ヲ用非テ臂ヲ胸前ニ吊リ以テ創所ノ動搖ヲ防クヘシ

三 何創ヲ問ハス骨ヲ損シタルモノヲ骨折ト謂フ而シテ臂脚ノ如キ長キ部ノ骨折ハ平常曲クヘカラサル所曲クヘク又其上下ヲ握リテ微ニ動セハ軋音ヲ感シ刺痛ヲ發ス此骨折ヲ兼ネタルモノニハ創傷ナキ面ニ副木ヲ當テ繃帶スルコトヲ要ス副木ナキトキハ樹皮藁束薄板劍鞘劍銃ノ一部等ヲ副ヘ固ク其上下端ヲ縛シテ其上ニ繃帶スヘシ脱臼ハ關節ノ位置形狀常ヲ變シ運動多クハ廢絶ス此場合ニハ患部ヲ適宜ノ位置ニ保持スヘシ

四 何創ヲ問ハス皮膚破レタル所ニハ手指等ヲ觸ルヘカラス外物創面ニ附着シテ之ヲ汚スコト甚シクハ消毒綿紗ニテ拭ヒ去ルモ妨ケナシ血液凝着シタルトキハ之ヲ剝キ取ルヘカラス又水ニテ創



面ヲ洗フヘカラス銃丸衣片ナト創口ニ顯ルトモ拔除ヲ試ミルヘ  
カラス其儘消毒綿紗ヲ用井之ヲ掩ヒ綑帶シテ醫官ノ許ニ送ルヘ  
シ

五 何創ヲ問ハス初メ消毒綿紗ヲ用井テ周密ニ處置スルトキハ治癒  
速且全ナリ之ニ反シテ初メ創面ニ手ヲ觸ル、トキハ後如何ニ完  
全ナル療法ヲ施スモ好結果ヲ收メ難シ

其二 止血

戰場ニテ卒ニ死スルモノハ出血ニ因ルコト多シ血ヲ止ムル法ノ緊要  
ナル所以ナリ出血ニニアリ創ノ全面ヨリ平齊ニ出血シ其量多カラス  
其色暗紅ニシテ迸出セサルモノヲ靜脈出血ト名ツケ創口ヨリ鮮紅色  
ノ血迸出シ其量多キモノヲ動脈出血ト名ツク大ナル動脈ノ出血ハ早  
ク之ヲ止ムルニアラテハ暫時ニシテ命ヲ殞サシムルモノナリ

甲 靜脈出血ニハ消毒綿紗ヲ創面ニ當テ指ニテ強ク壓シ血ノ止マル

ヲ見ハ更ニ綿紗二枚ヲ其上ニ覆ヒ堅ク綑帶スヘシ

乙 動脈出血ニハ其部ヲ高ク保持セシメ先ツ綿紗一二枚ヲ丸メテ出

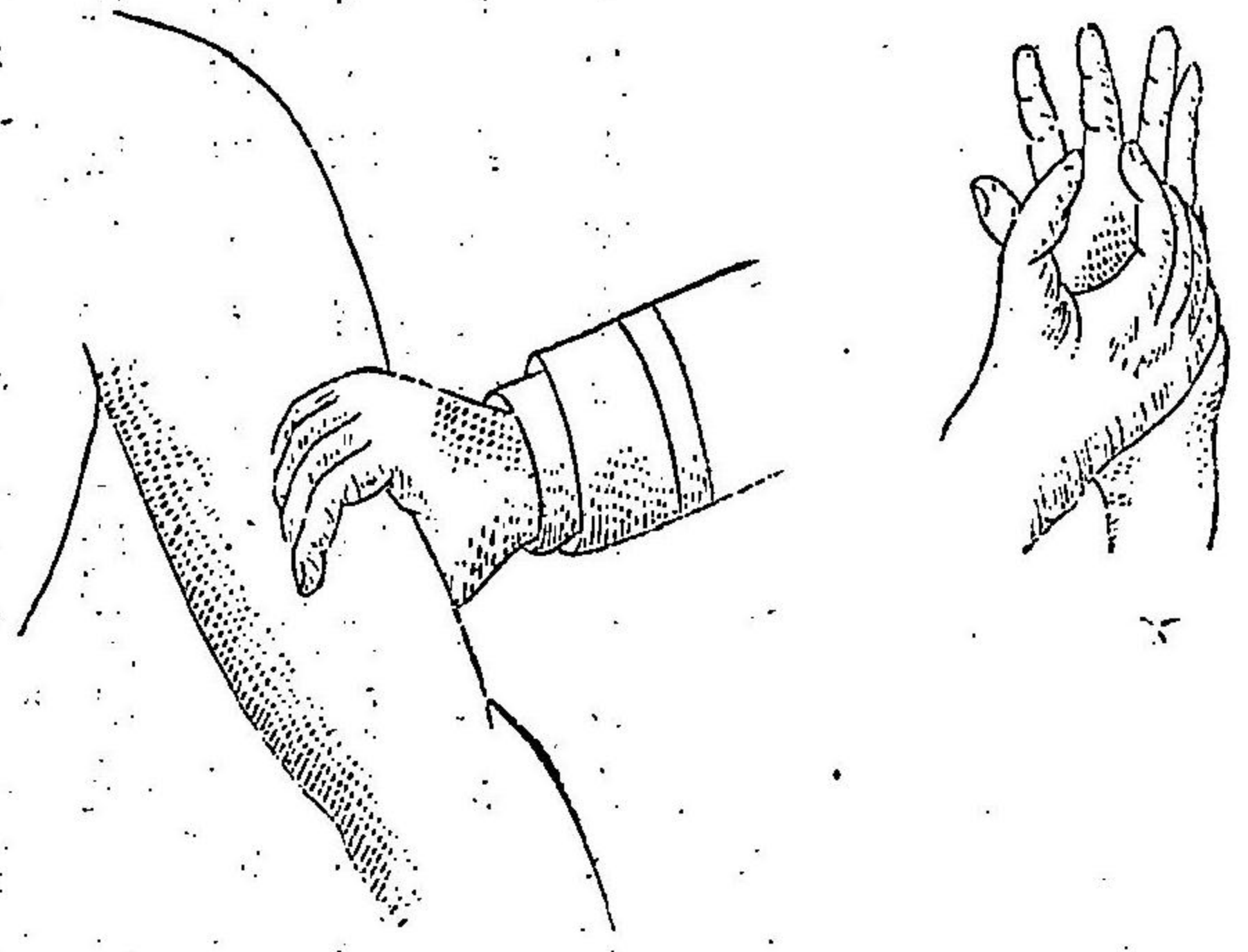
血スル處ニ當テ指ニテ強ク壓スヘシ若シ血止マサルトキハ創所

上部ノ動脈通路ヲ壓スヘシ總テ脈管ヲ壓スルニハ其中心ノ骨ニ

向テ強ク壓迫セサルヘカラス其部位左ノ如シ



第一圖 第二圖

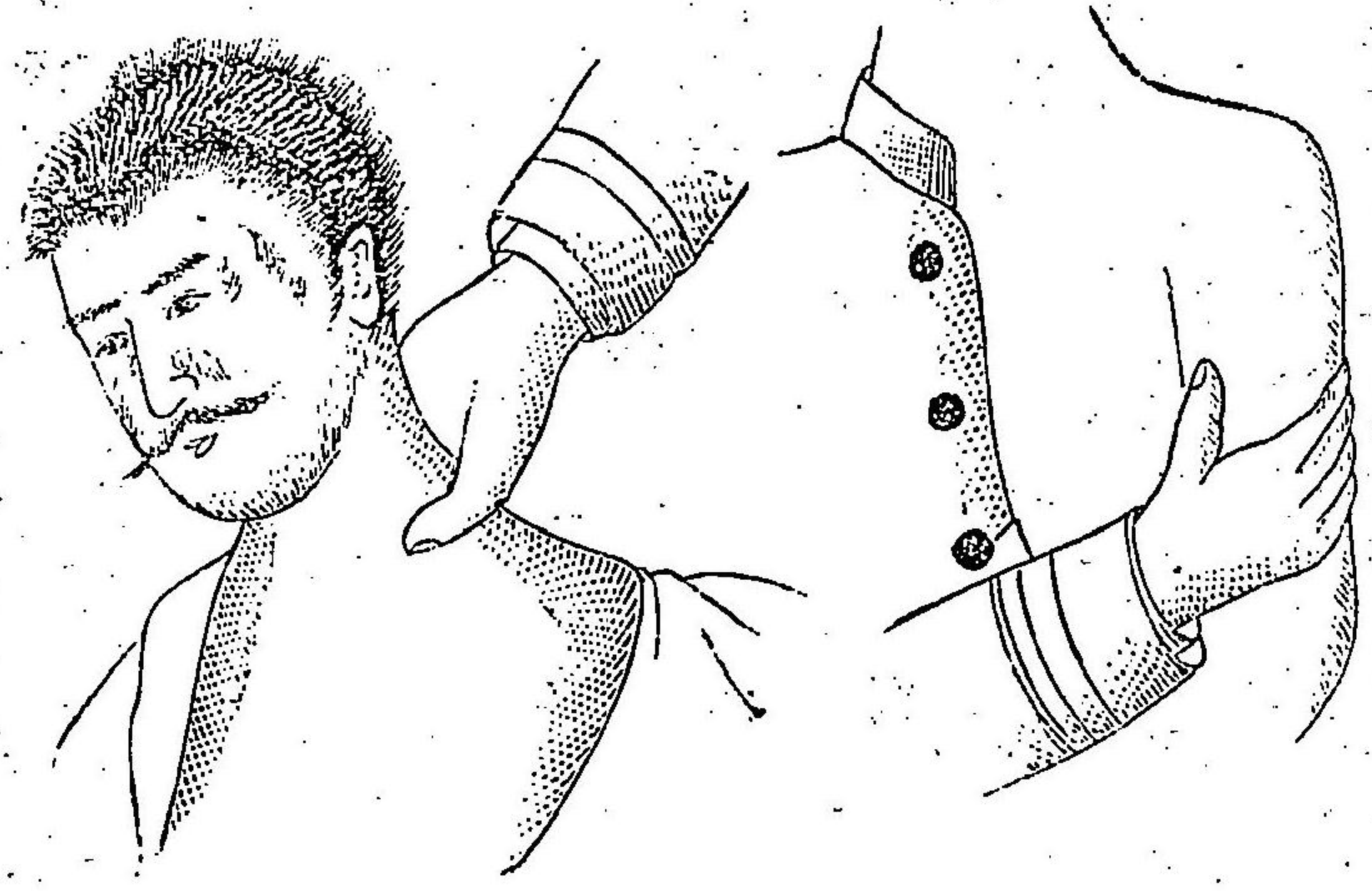


指ノ出血ニハ其指根ノ兩側ニ拇指ト示指トヲ當テ強ク撮ムヘシ(第一圖)

手臂ノ出血ニハ上膊内側ナル淺キ溝中搏動アル所ニ示指中指及環指ヲ當テ手掌ヲ前面或ハ後面ニ廻ラシ握リ指頭ニテ壓スヘシ(第二圖)

又傷者自ラ之ヲ行フニハ拇指頭ヲ上膊ノ内側ナル淺溝ニ當テ手掌ヲ前面ニ

第三圖 第四圖



廻ラシ握リ拇指頭ニテ壓スヘシ(第三圖)

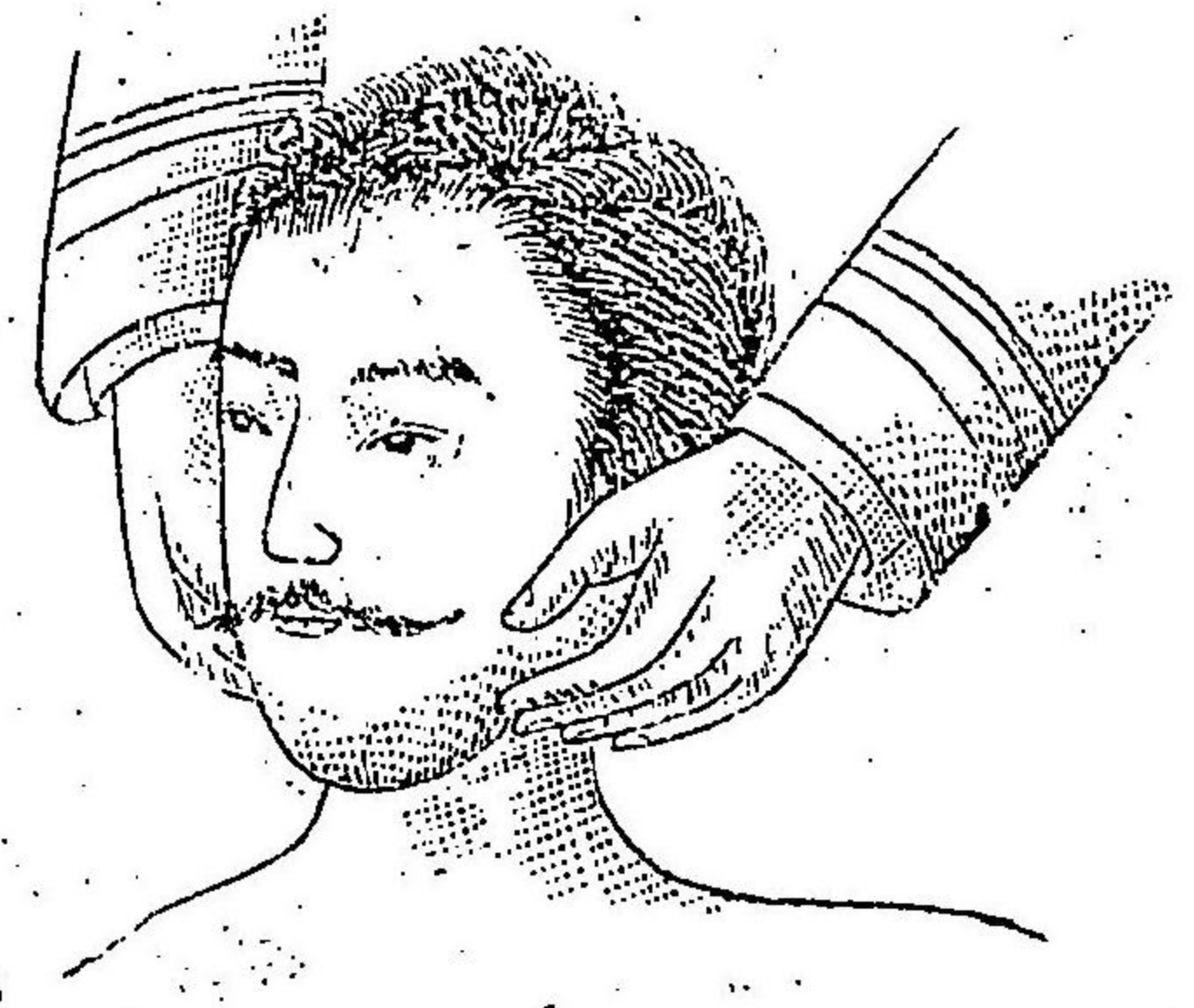
上膊ノ上部或ハ腋窩ノ出血ニハ頸ノ下鎖骨ノ上ノ窩ニ拇指頭ヲ當テ深ク内下方ニ向テ壓スヘシ(第四圖)

口ノ近傍ノ出血ニハ下顎骨角ノ稍前方ヲ骨ニ向テ強ク壓スヘシ(第五圖)

脚ノ出血ニハ鼠蹊ノ中央ノ下ニ兩拇指ヲ當テ、壓



スヘシ(第六圖)

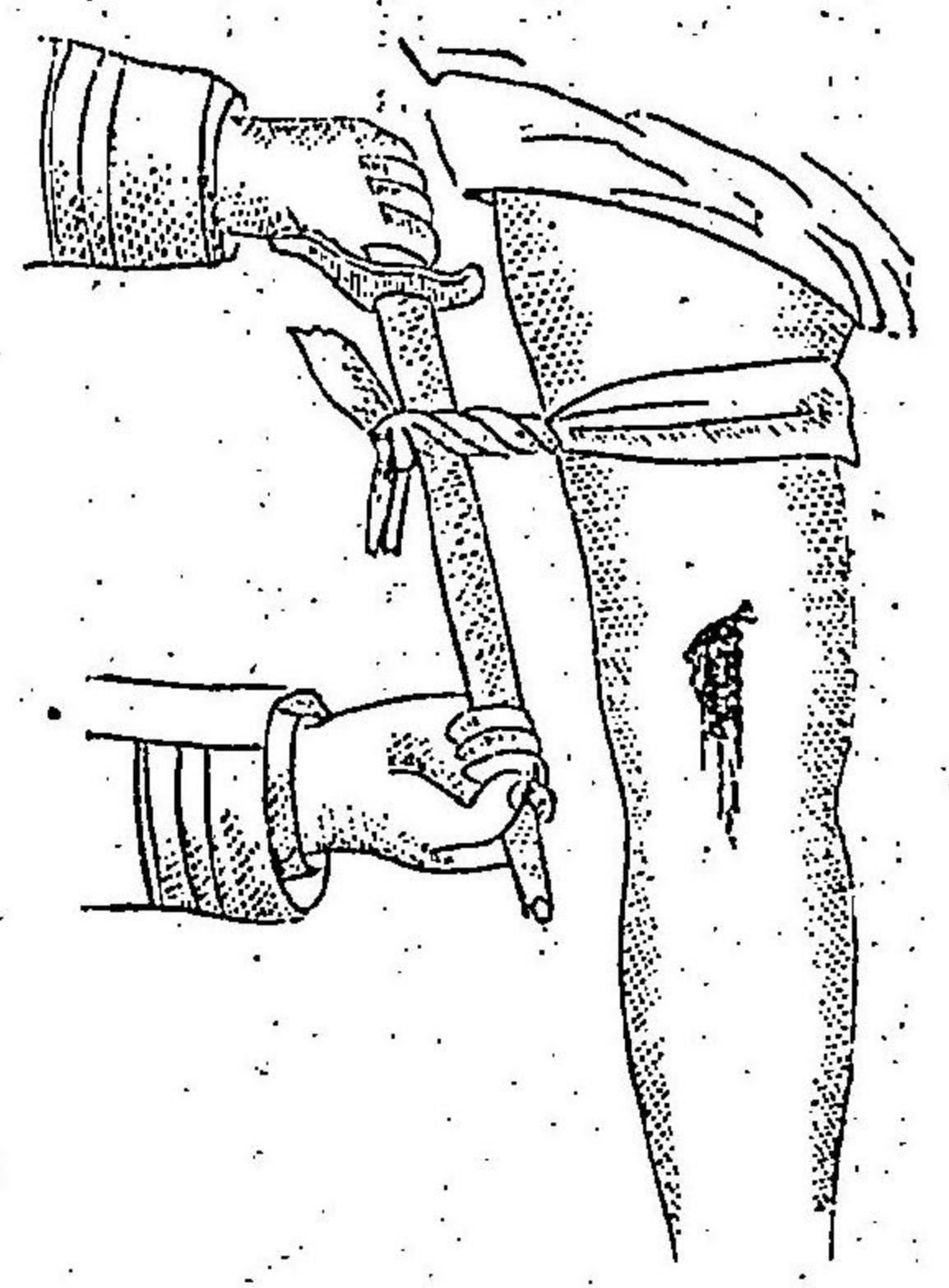


圖六第



第五圖

第七圖



結ヒ之ニ劍鞘、木、竹、懷中小刀、拳銃等ノ棍狀物ヲ挟ミ回轉シテ血止マ  
ルニ至リ、挟ミタルモノ、一端ヲ止メ置クヘシ(第七圖)

其三 綑帶包

一 凡ソ創面ハ前ニ述ヘタル如ク無毒ナルモノ若クハ消毒シタルモ

上法ニテ久シク壓スルト

キハ手指疲レ又醫官所在

ノ地ニ赴カントスルニ便

ナラサレハ一旦指壓ヲ行

ヒタル後左法ヲ以テ之ニ

代フヘシ、栗大ノ小石等ヲ

布ニ包ミテ當テ其上ヲ手

巾等ニテ緩ク卷キ末端ヲ



ノニアラテハ觸ルヘカラス平常ニテモ無毒ナルモノト消毒シタルモノトハ得易カラス況ヤ戰場ヲヤ故ニ消毒綿紗ヲ裹ムニ不透性物現時澁引紙ヲ用ユヲ以テシ更ニ三角巾ヲ其上ニ被セ止針ニテ留メ之ヲ上衣ノ襟角ナル處ニ納メ以テ負傷時ノ用ニ備フ此綿帶包ハ用ニ臨メルニアラテハ開キ見ルコトヲ禁ス開キ見ルトキハ其効能ヲ失ヘハナリ

二 綿帶包ハ外ヨリ之ヲ分解スレハ左ノ如シ其一、外包ハ三角巾ナリ三角巾ハ三角巾用法ノ示ス處ノ如ク諸般ノ救急綿帶トナスニ宜シ其二ハ澁引紙ナリ澁引紙ハ未タ開カサルトキ消毒綿紗ノ濕潤ヲ防キ既ニ開キタルトキ之ヲ創ヲ掩ヘル消毒綿紗ノ上ニ加ヘ以テ外濕ノ創面ニ及フヲ防ク其三ハ重疊シタル消毒綿紗三枚ナリ此消毒綿紗コソハ軍人ノ爲メニ負傷時生命ヲ救フ具ト謂フヘキ

ナレ其三枚アルハ銃丸ニ射貫カレタルトキ一枚ヲハ射入口ニ一枚ヲハ射出口ニ當テシカ爲メナリ他ノ一枚ハ萬一誤チテ一枚ヲ地上ニ落シ又ハ之ヲ汚シタル時ノ爲メニ備フルナリ消毒綿紗ヲ用井ルモノハ外面ヲ指ニテ撮ミ内面ヲ創ニ當ツヘシ(創ニ當ツル面ハ指モテ觸ルヘカラス)

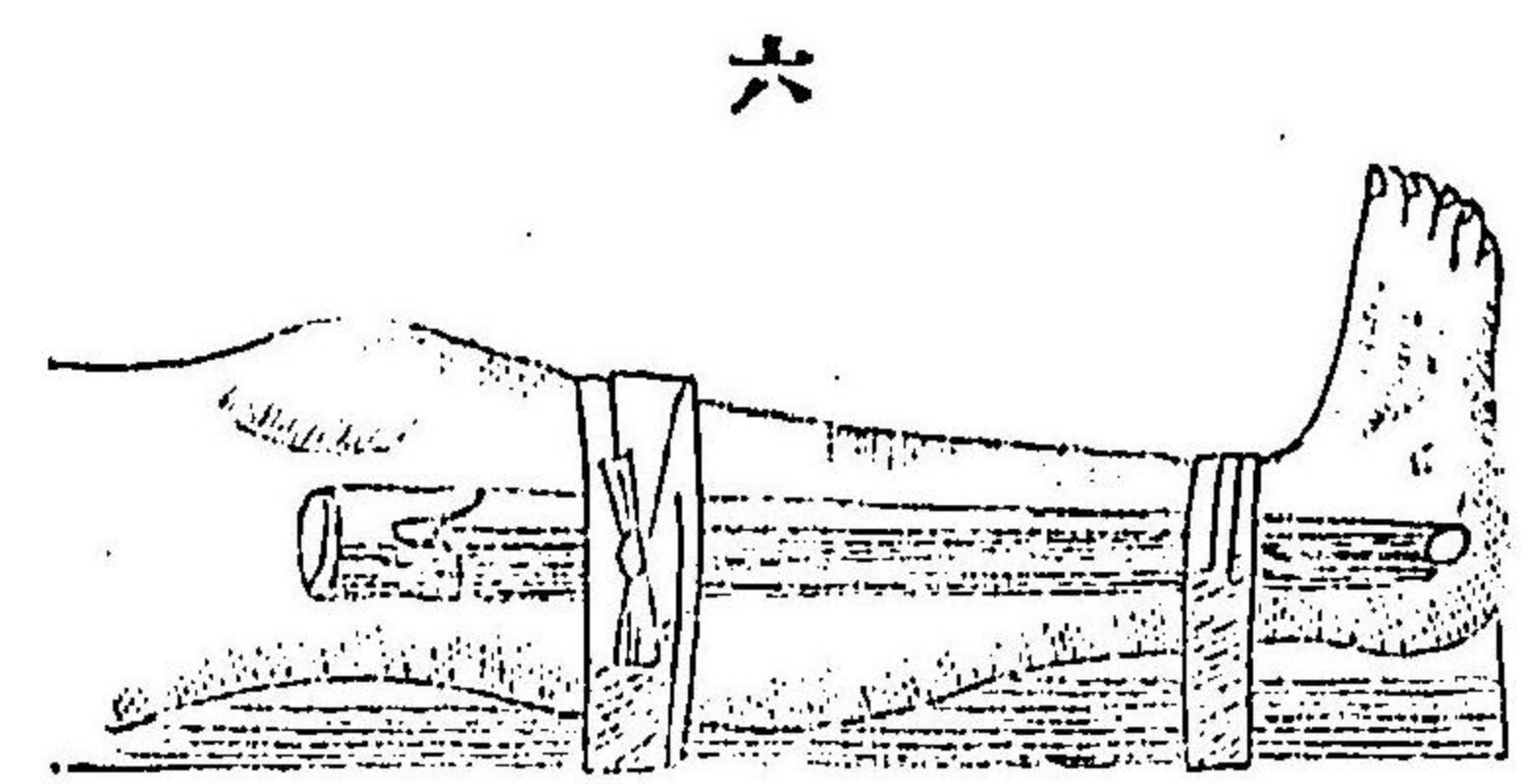
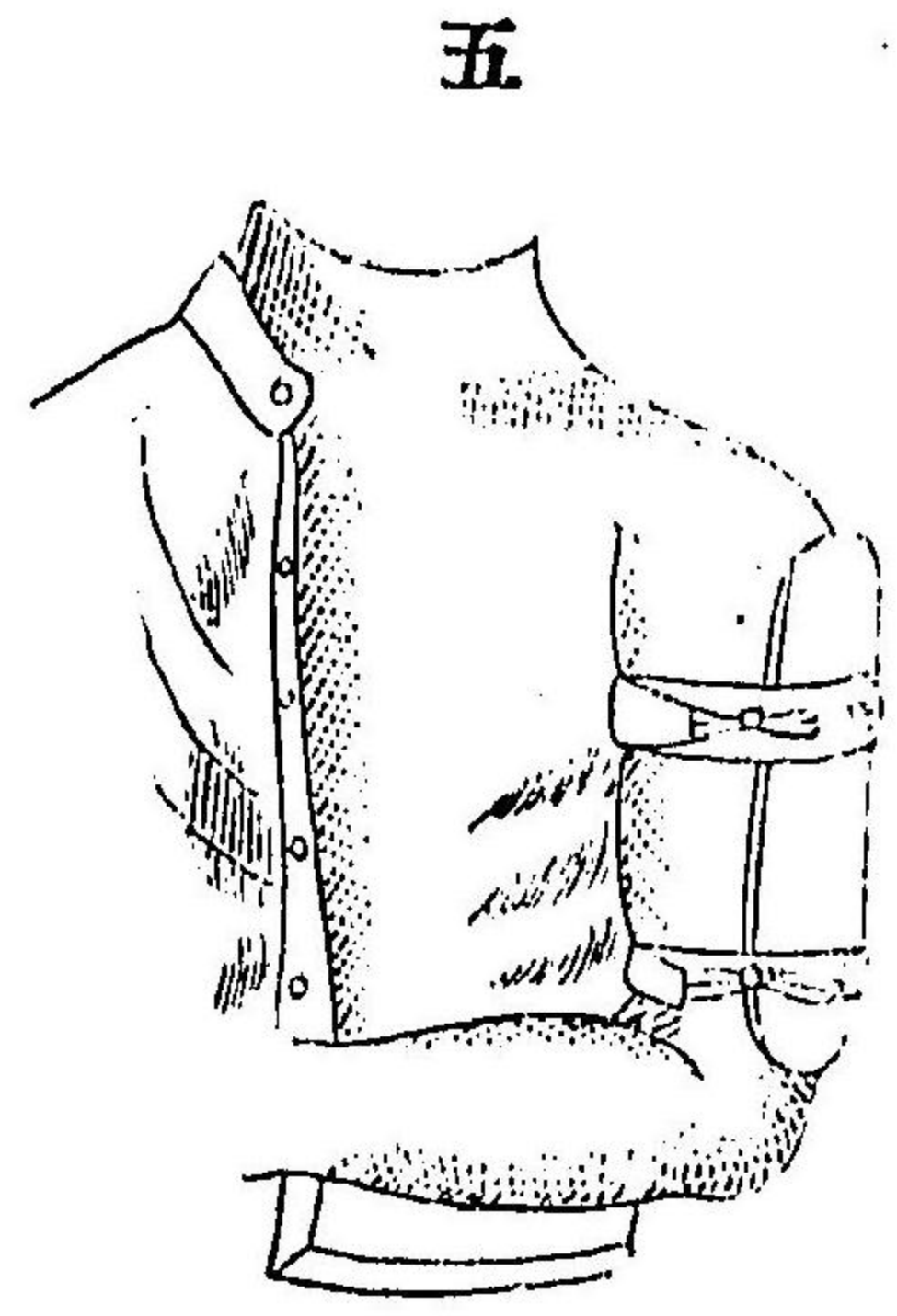
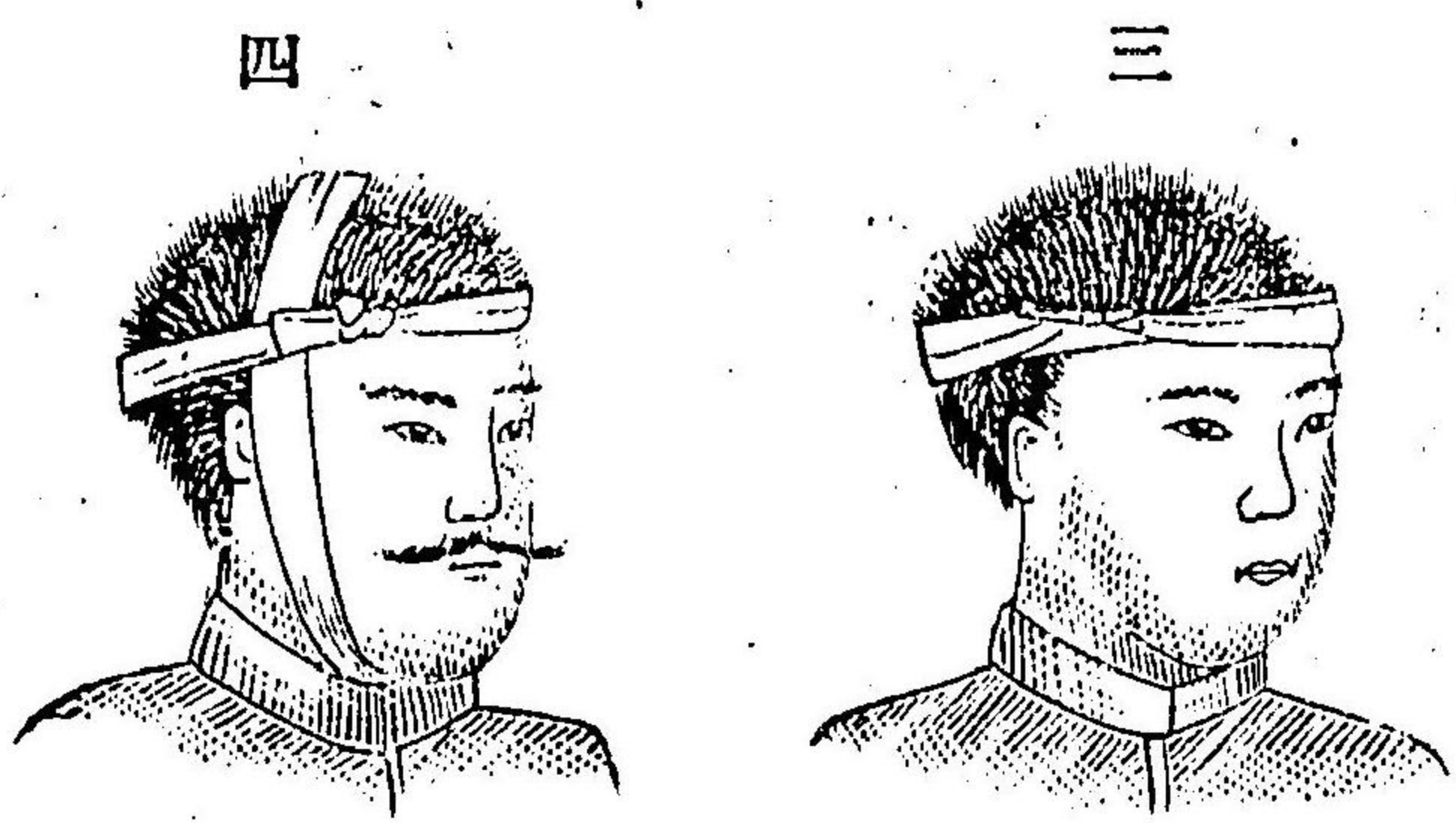
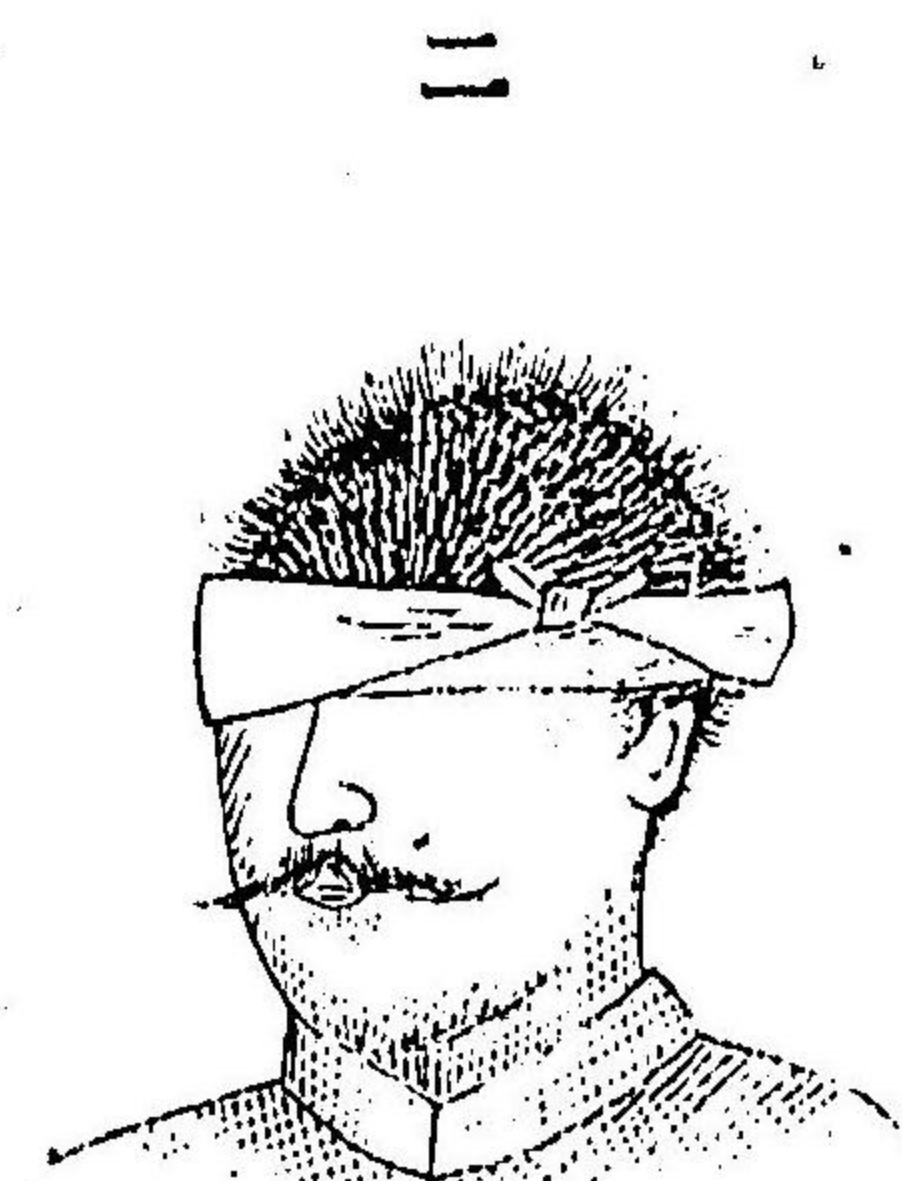
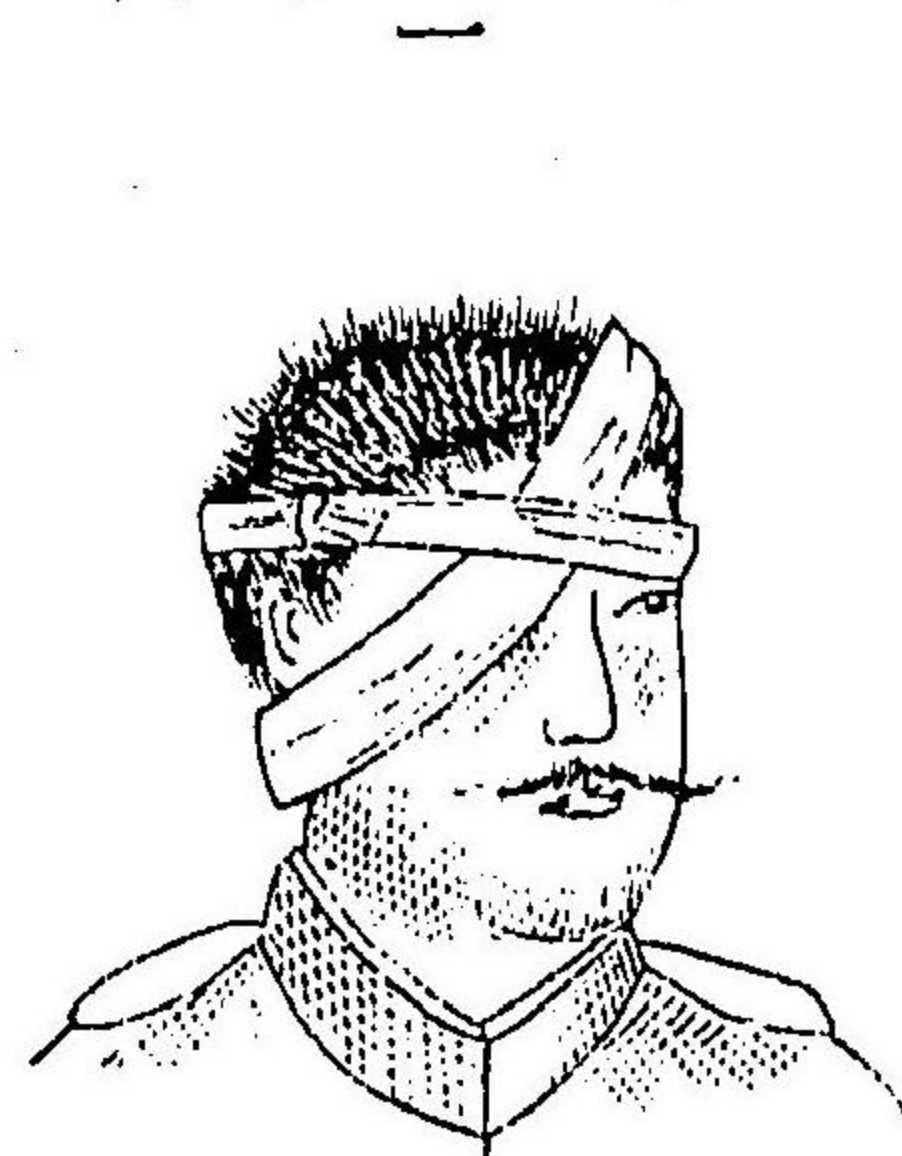
我陸軍衛生部ニテハ消毒シタル綿紗、綿花等ハ淡紅ニ染ムルヲ法トス故ニ凡ソ創面ニ觸ル、モノハ必ラス淡紅ニ染メタル物料タルヘシ

三 創傷處置ノ際ハ卒ニ<sup>ニハカ</sup>綿帶包ヲ開クヘカラス先ツ被服ヲ解キテ創ヲ見若シ副木等ヲ要セハ副木又ハ臨時副木ヲ備ヘ豫メ處置ノ順序ヲ定メ然ル後綿帶包ヲ解キ三角巾ヲ應用ノ形ニ疊ミ更ニ創ヲ熟檢シテ快手澁引紙ヲ開キ消毒綿紗ヲ出シ式ノ如ク創面ニ當テ



第八圖

澁引紙ニテ覆ヒ三角巾ニテ綑帶シ止針ニテ留メ又ハ末端ヲ結フ  
 ヘシ慎ミテ包紙ヲ開クコト早キニ失シ既開ノ綿紗ヲ放置スルカ  
 如キ愚ヲナスコトナカレ  
 三角巾ハ或ハ開キタル儘之ヲ用非或ハ尖頂ヨリ順次反折シテ巾  
 二寸許ノ片トナシテ之ヲ用非ルナリ後者ヲ頸巾狀帶ト名ツク又  
 卷方ハ身體ノ部位ニ隨テ異ナリ左ノ如シ





眼、耳、額、頰、頤、手、足ノ小サキ創ヲ卷キ或ハ骨傷ニ竹木等ヲ副ヘテ之ヲ固定スルニハ頸巾狀帶ヲ以テス(第八圖ニ至ヨリ六)

頭ノ創ヲ卷クニハ開キタル儘其中央ヲ頭頂ニ置キ下縁ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭後ニ廻ラシ交叉シテ額ニ戻シ結ヒテ止メ後ニ垂レタル三角部ヲ反折シテ頭頂ニ至リ止針ニテ縫ヒ止ムヘシ(第九圖)

胸創ニハ巾ノ中央ヲ胸部ニ當テ尖頂ハ患側ノ肩ヲ越サセテ後ニ引キ下縁ニテ胸圍ヲ纏ヒ(第十圖)兩尖尾ヲ左右ノ腋下ヨリ背ニ廻ハシテ結ヒ更ニ肩後ニ垂レタル尖頂ト尖尾ノ末トヲ結フヘシ(第十一圖)

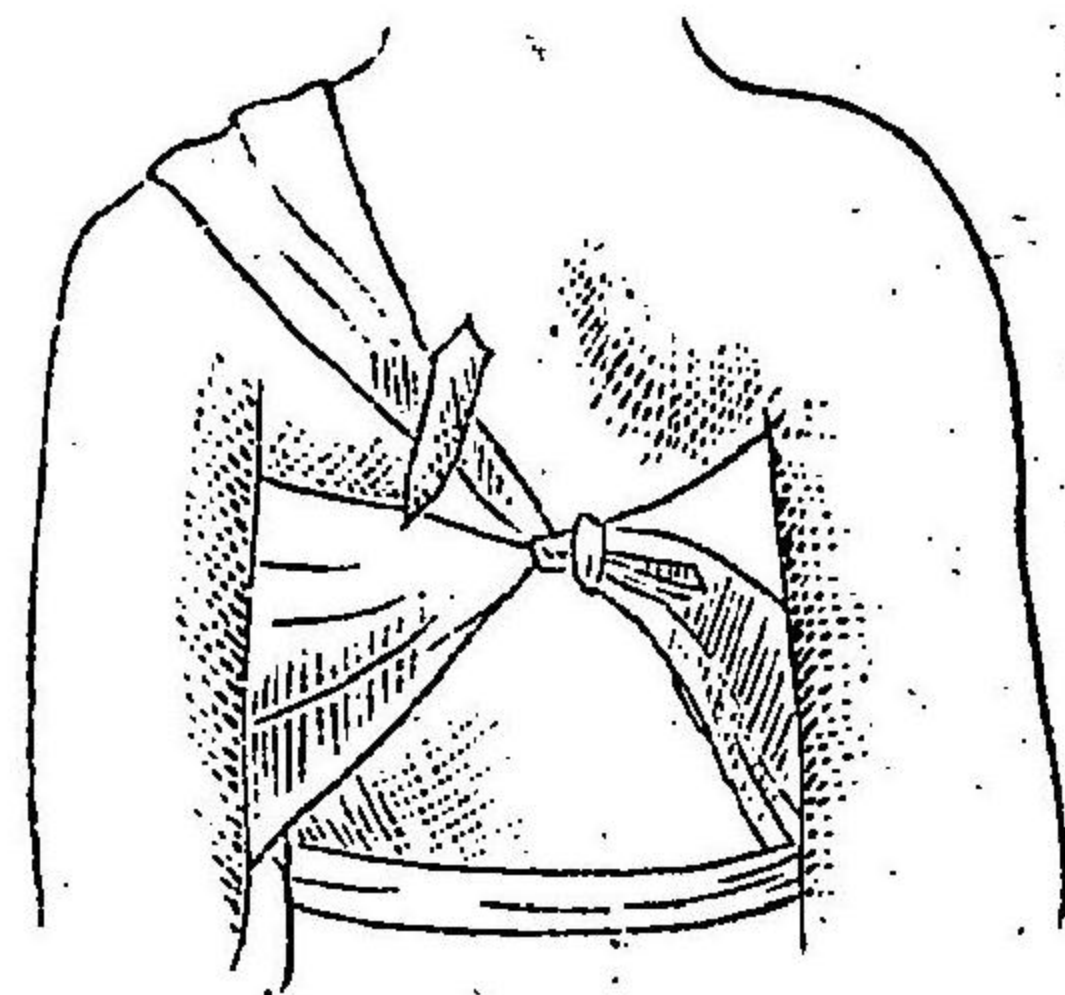
背創ノ卷キ方ハ胸創ニ同シ唯後ヨリ掩ヒ前ニテ結フヲ異ナリトナスノミ(第十二圖)

臀部ノ創ヲ卷クニハ尖端ヲ上方ニ向ケ下縁ニテ大腿ヲ纏ヒ後上

圖九第



圖一十第



圖十第



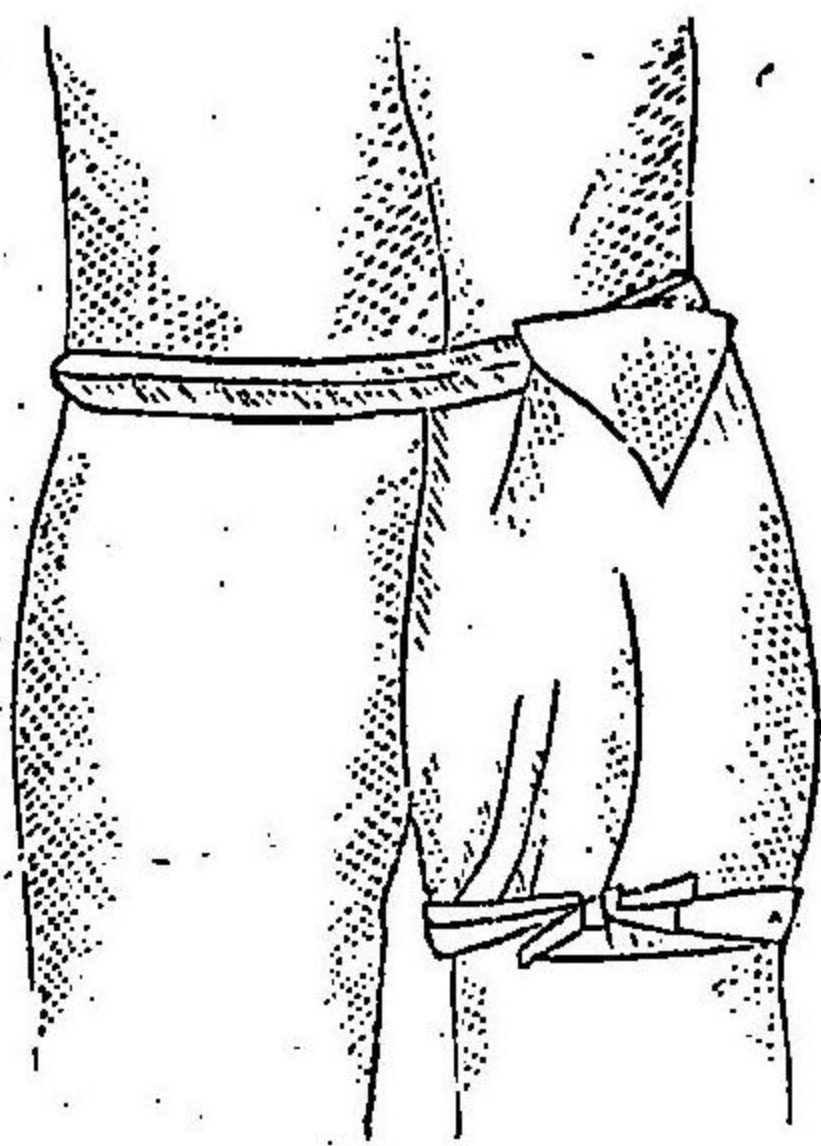
圖二十第





方ニ向ケタル尖端ヲ揮紐(又ハ腰圍ニ結ヒタル劍帶等)ノ下ニ通シ折リ返シテ止針ニテ留ムヘシ(第十三圖)  
 臂若クハ脚ノ骨傷ニハ副木ヲ當テ少クトモ二箇所ヲ結ヒ安保スヘシ(第八圖六五)

圖三十第



圖四十第



手ノ創ヲ卷クニハ三角巾ヲ二ツニ疊ムカ或ハ切りテ小サキ三角形トナシ其長縁ヲ手首ノ方ニ向ケテ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ反折シテ手ヲ被ヒ次テ兩端ヲ交叉シテ手首ヲ纏ヒ結フヘシ(第十四圖)  
 足ノ創ノ卷キ方ハ手ノ創ト異ナルコトナシ

第一章 急病

其一 卒倒

衣袴ノ釦ヲ開ケ胸腹ヲ緩メ頭及ヒ上半身ヲ稍高クシテ安臥セシメ但頭面蒼白ナル者ハ上半身殊ニ冷水ヲ手巾ニ浸シ輕ク心臟部ヲ叩キ冷水ヲ面ニ灌キ室内ナラハ扇ヲ利ク開醒覺スルニ及ンテ冷水ヲ飲マシムヘシ若シ醒覺セスハ人工呼吸法(後ツ)ヲ行フヘシ

其二 火傷

火傷ハ空氣ニ觸ル、ヲ忌ム皮膚赤色トナリテ灼痛ヲ覺ユルモノハ冷



水ヲ注キテ輕ク包ムヘシ水泡ヲ生シタルモノハ其側縁ヲ針ニテ刺シ水ヲ漏ラスヘシ泡皮ヲ剝クヘカラス皮膚爛レタルモノハ綿紗ヲ貼ケ綑帶スヘシ衣ノ燃ルトキハ水ヲ灌キ又ハ徐カニ地上ニ伏シ轉ヒテ之ヲ滅シ然後脱キ去ラシムヘシ衣服ノ一部皮上ニ附着スルトキハ強テ之ヲ剝キ取ルヘカラス剪刀ヲ用井テ周圍ヲ切り取り綑帶スヘシ手足ノ指ヲ火傷セシトキハ一々綿紗ニテ被ヒ又ハ油ヲ塗リ指毎ニ綑帶スヘシ若シ一併ニ綑帶セハ隣指相膠着スルノ虞アリ

其三 日射病

日射病ハ發汗甚シク皮膚熱シ顔面赤ク或ハ蒼ク呼吸促迫シ終ニ人事不省トナリテ倒ル之ヲ救フニハ涼シキ木蔭或ハ屋内ニ移シ衣服ヲ解キ上半身ヲ高クシテ安臥セシメ冷水ヲ手巾ニ浸シ頭胸ヲ被フヘシ猶醒覺セサルトキハ冷水ヲ全身ニ灌キ或ハ冷水ニ浴セシムヘシ又呼吸

止ミタルモノハ人工呼吸法(後ツ)ヲ行フヘシ

其四 凍傷

凍傷ハ雪氷若クハ冷水ヲ用井テ久シク摩擦スヘシ決シテ急ニ温ムヘカラス水泡ヲ生シ又暗黒色ヲ呈スルトキハ處置火傷ト同シ

其五 凍死假死

凍死假死ハ皮膚蒼白四肢耳鼻等強クナリテ倒ル之ヲ救フニハ冷室若クハ風ナキ木蔭ニ移シテ衣服ヲ除キ雪又ハ冷水ヲ用井テ全身ヲ輕柔ニ注意シテ摩擦シ或ハ冷水ニ浴セシメ諸部ヲ摩擦シ四肢柔軟ナルニ及ンテ人工呼吸法(後ツ)ヲ行ヒ尙絶エス摩擦シ呼吸復スルニ至リテ薄被ヲ被ヒ次第ニ厚キヲ加ヘ室ヲ暖ムヘシ決シテ急ニ暖ムヘカラス

其六 溺水

溺者ハ衣服ヲ除キ手巾ヲ示指ニ纏ヒテ口内ノ泥土ヲ拭ヒ去リ救護者



平坐シテ溺者ノ腹ヲ我カ膝上ニ當テ俯臥セシメ胸部ヲ低クシ手掌ヲ用井テ溺者ノ額ヲ支ヘ稍頭首ヲ反ラセテ水ヲ吐カセ後人工呼吸法(後ニ出ツ)ヲ行フヘシ

其七 縊首

縊首者ヲ救フニハ身体ヲ抱持シテ索ヲ斷テ靜カニ卸シタル後胸腹部ヲ緩メ壓痕ヲ撫テ人工呼吸法(後ニ出ツ)ヲ行フヘシ

其八 窒息

廢井深窖等ニ入りテ窒息スル者ハ新鮮ナル空氣中ニ移シ人工呼吸法(後ニ出ツ)ヲ行フヘシ救護者ハ快速ニ救ヒ出シ自ラ窒息セサル様注意スヘシ又街頭瓦斯ノ室中ニ溢レタル疑アルトキハ火ヲ携フヘカラス

其九 咬傷

毒蛇狂犬ニ咬マレタルトキハ口ヲ創所ニ接シ毒ヲ吸ヒ出シ其上部ヲ

手巾或ハ紐ニテ縛リ創口ニハ綿紗ヲ貼ケ三角巾ニテ紮帶スヘシ但口ニテ吸出シタルトキハ必ラス唾ヲ吐キ水ニテ嗽クヘシ

其十 中毒

毒物ヲ飲食シテ未タ久シカラサルトキハ吐カシムルヲ可トス吐ヲ催スニハ指頭羽毛等ニテ咽頭ヲ搔キ又大量ノ微温湯、鹽湯若クハ生卵牛乳ヲ飲マシムヘシ若シ吐カサルトキハ多ク温茶若クハ微温湯ヲ飲マシメ毒質ヲ稀クスヘシ

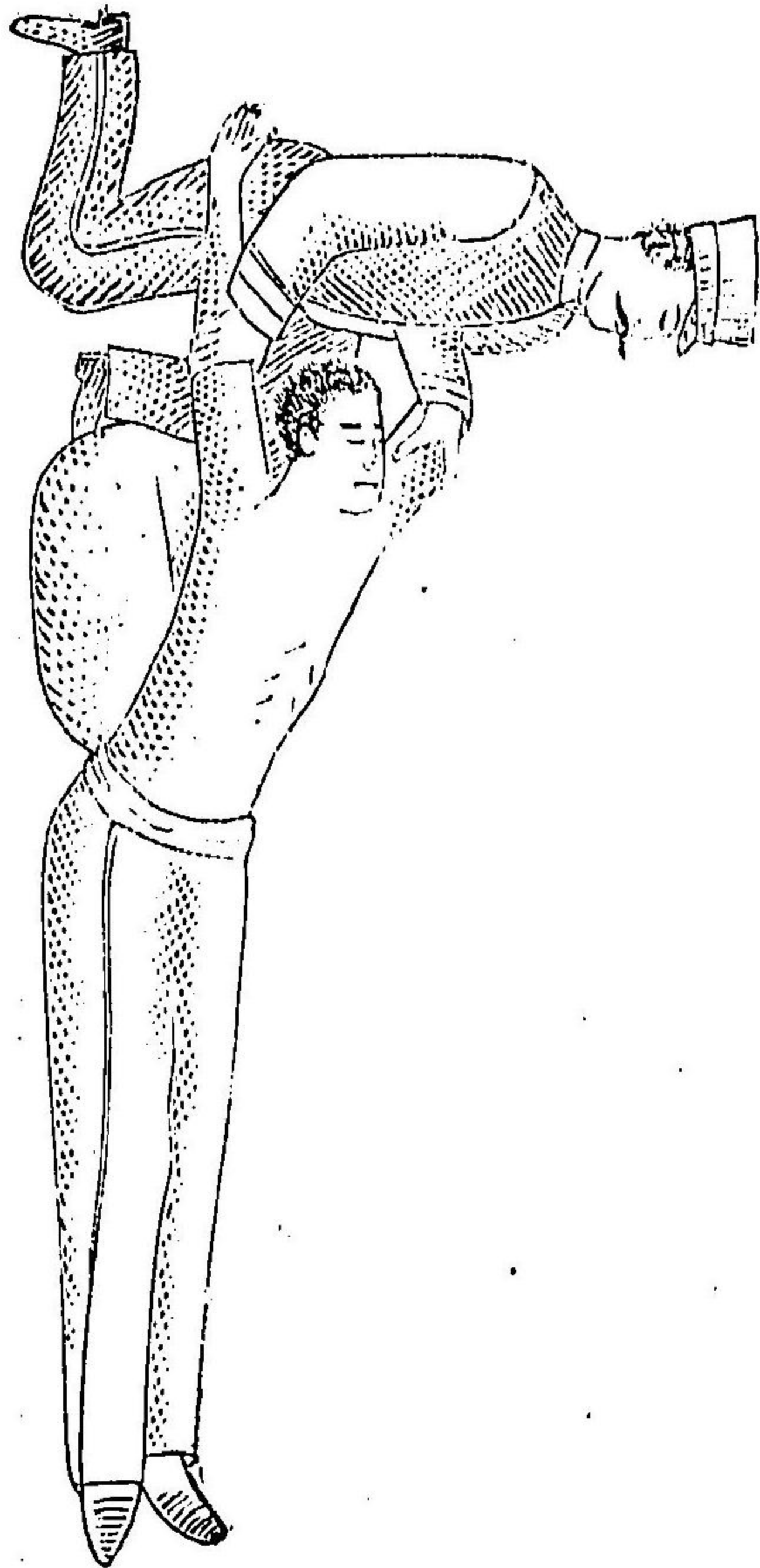
其十一 人工呼吸法

人工呼吸法ハ救急ノ最要法ナリ平常演習シ置クコトヲ要ス其法患者ヲ平臥セシメ口ヲ開キ舌ヲ引キ出シ術者ハ頭邊ニ跪キ(ヒザツ)兩手ニテ患者ノ肘ヲ捉ヘ舉上シテ頭上ニ至ラシメ空氣ヲ肺中ニ吸入セシムルコト大約二秒時(第十五圖甲)次テ急ニ患者ノ臂ヲ下ケテ胸側ニ壓付ケ肺中



ノ空氣ヲ呼出セシムルコト亦二秒時ナルヘシ(第十五圖乙)但シ呼出ノ際ハ助手ヲシテ兩手掌ニテ胸前及ヒ心窩ヲ壓セシムヘシ此ノ如ク反復スルコト數百回患者自ラ呼吸スルニ至リテ止ム但シ之ヲ行フコト數回ニシテ効ナクモ早ク尖鼻廢棄スヘカラス

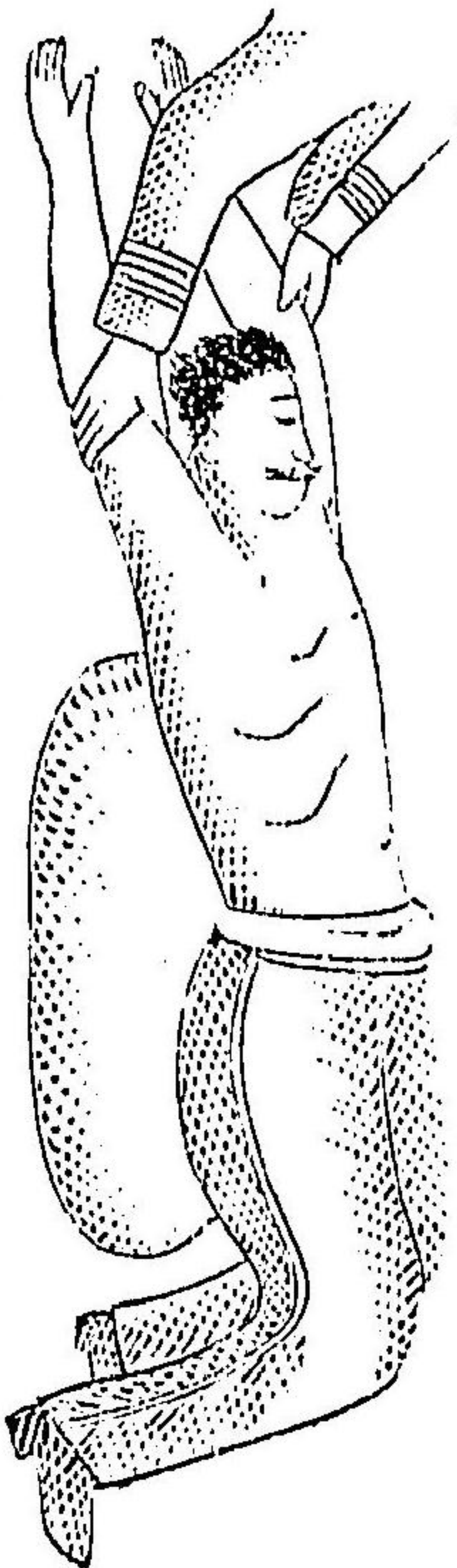
甲 圖 五 十 第



乙 圖 五 十 第



丙 圖 五 十 第





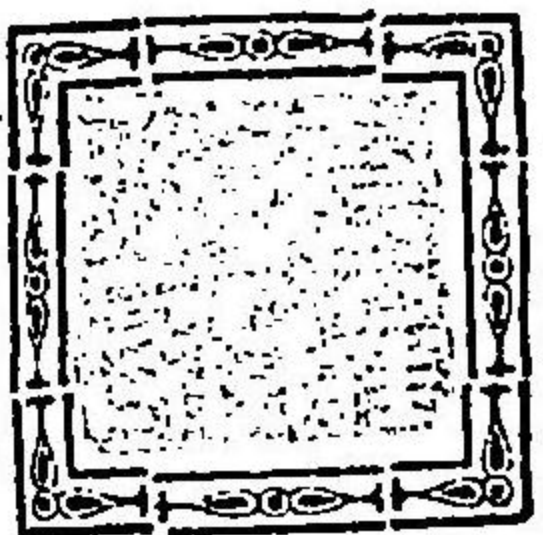


仰臥ノ際面色暗紅ナルモノハ其頭ヲ高クシ(第十五圖乙)蒼白ナルモノ  
ハ之ヲ低クスルコトヲ勉ムヘシ(第十五圖丁)

軍人衛生學終

明治三十三年十二月二十五日印刷

明治三十三年四月十四日一發行



教育總監部

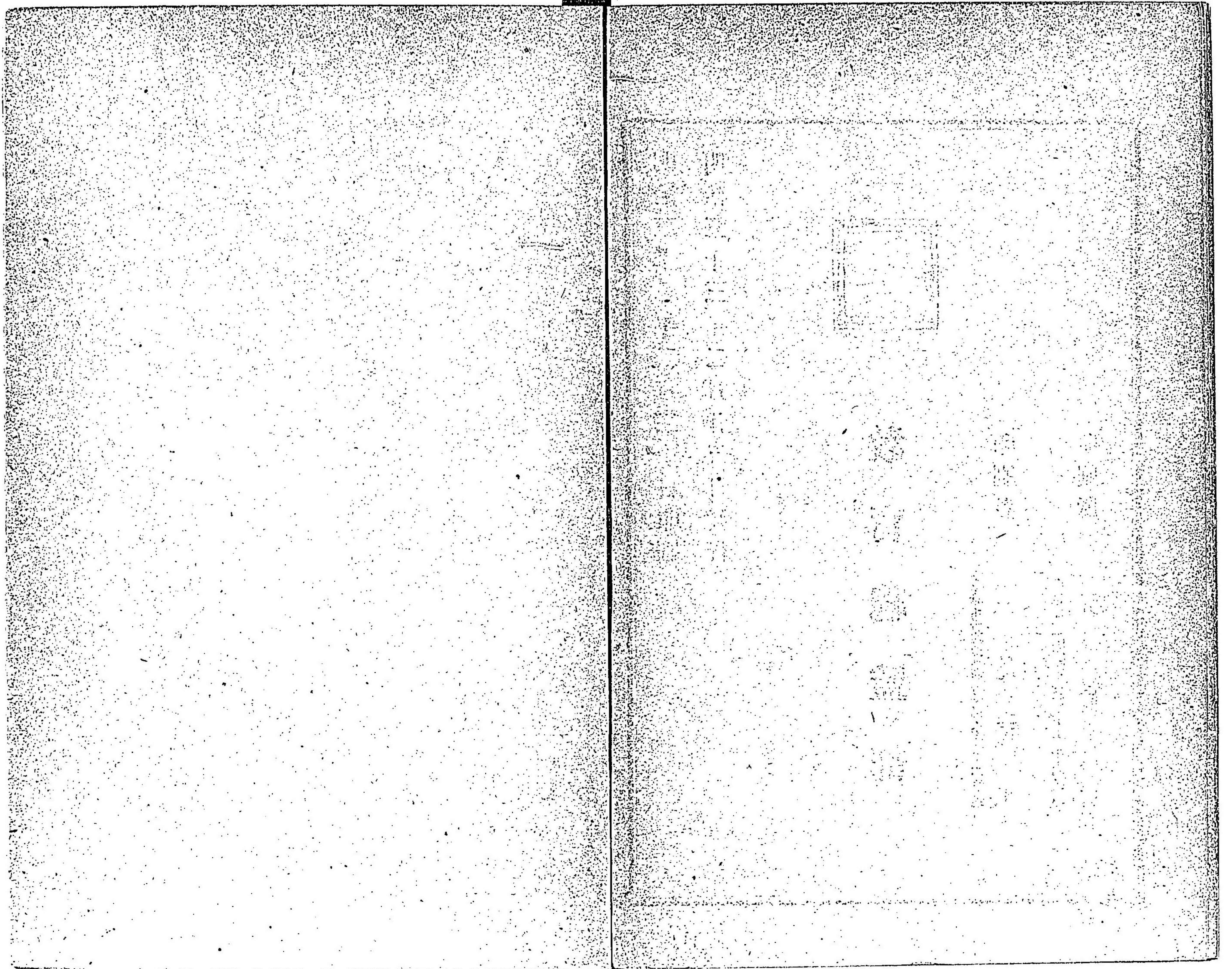
印刷者 三島良忠

東京市京橋區新着町十五、十六番地

印刷所 元真社

東京市京橋區新着町十五、十六番地







82
196



